

第6章 公共施設に関する アンケート調査及び分析結果



第6章 公共施設に関するアンケート調査及び分析結果

1 調査目的

公共施設再配置計画の推進に当たっては、公共施設を利用する市民のみならず、広く市民の声を聴き、公共施設のあり方に対する意向を把握する必要があります。そのためには、無作為抽出による市民アンケート調査が有力な手段となることから、平成21年度に続き、インターネットによるアンケート調査を実施したものです。

2 調査期間（インターネット上での回答受付時間）

開始 平成24年12月11日（火）午後 5時30分

終了 平成24年12月17日（月）午前11時56分

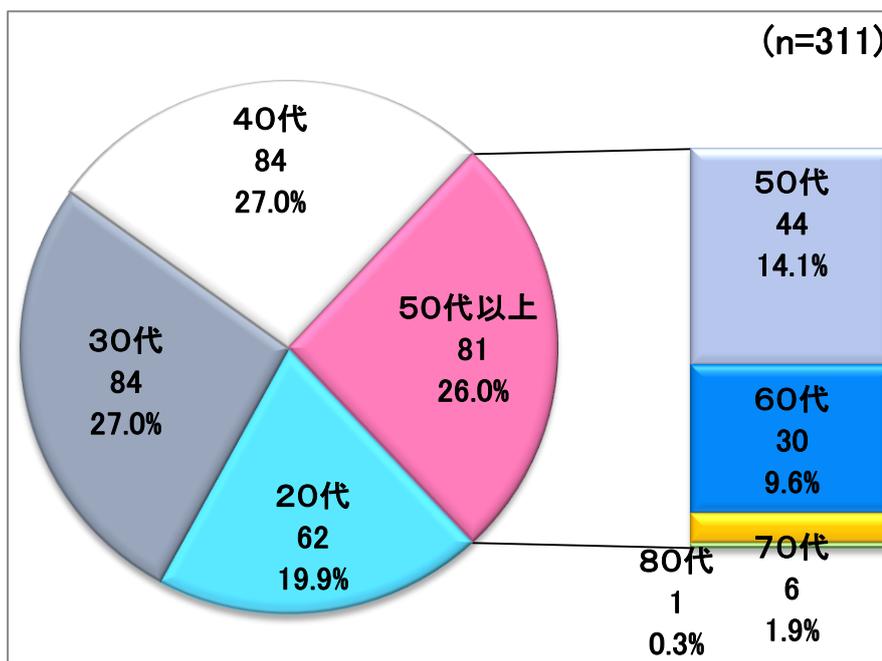
3 調査対象

調査会社が行うインターネットによるアンケート調査への協力を登録している会員の中から、秦野市在住者を抽出して調査したものです。

4 回答者の属性及び分析結果

属性1 年齢及び性別

◆ 20代については、回収率の実績が低いとのことであったため、サンプル数を少なくしました。また、50代以上については、30、40代と同数の回収を目指しましたが、会員数も少ないことから、標準数の80を上回った時点で調査を締め切りました。

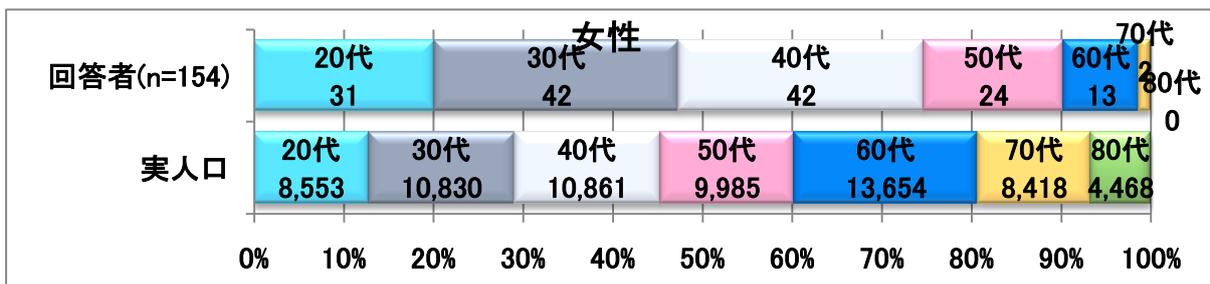
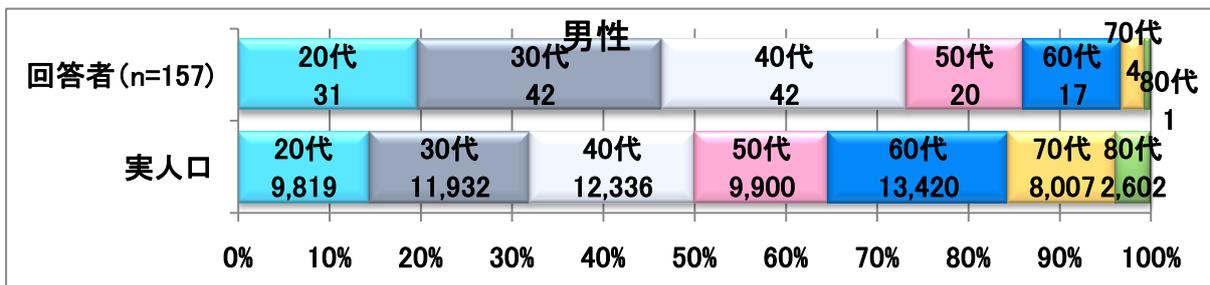
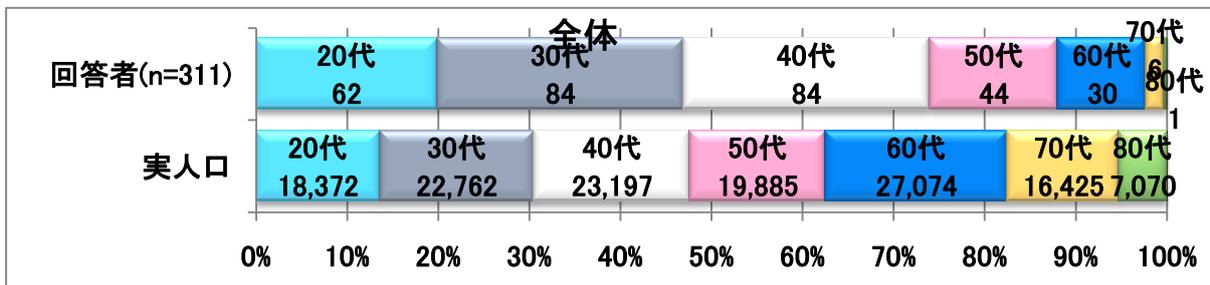


◆ 実人口との比較

実人口（平成24年11月30日現在の20歳から89歳までの住民基本台帳人口。以下同じ。）では、60代の割合が最も多くなりますが、回答者の年齢別割合は、男女ともに30代及び40代が最も多くなっています。

なお、50代に関しては、実人口の割合と回答者の割合がほぼ同じとなりました。

性別 年齢	男		女		計	
	人数 (実人口)	割合 (実人口)	人数 (実人口)	割合 (実人口)	人数 (実人口)	割合 (実人口)
20代	31 (9,819)	10.0% (7.3%)	31 (8,553)	10.0% (6.3%)	62 (18,372)	19.9% (13.6%)
30代	42 (11,932)	13.5% (8.9%)	42 (10,830)	13.5% (8.0%)	84 (22,762)	27.0% (16.9%)
40代	42 (12,336)	13.5% (9.2%)	42 (10,861)	13.5% (8.1%)	84 (23,197)	27.0% (17.2%)
50代	20 (9,900)	6.4% (7.3%)	24 (9,985)	7.7% (7.4%)	44 (19,885)	14.1% (14.8%)
60代	17 (13,420)	5.5% (10.0%)	13 (13,654)	4.2% (10.1%)	30 (27,074)	9.6% (20.1%)
70代	4 (8,007)	1.3% (5.9%)	2 (8,418)	0.6% (6.2%)	6 (16,425)	1.9% (12.2%)
80代	1 (2,602)	0.3% (1.9%)	0 (4,468)	0.0% (3.3%)	1 (7,070)	0.3% (5.2%)
計	157 (68,016)	50.5% (50.5%)	154 (66,769)	49.5% (49.5%)	311 (134,785)	100.0% (100.0%)

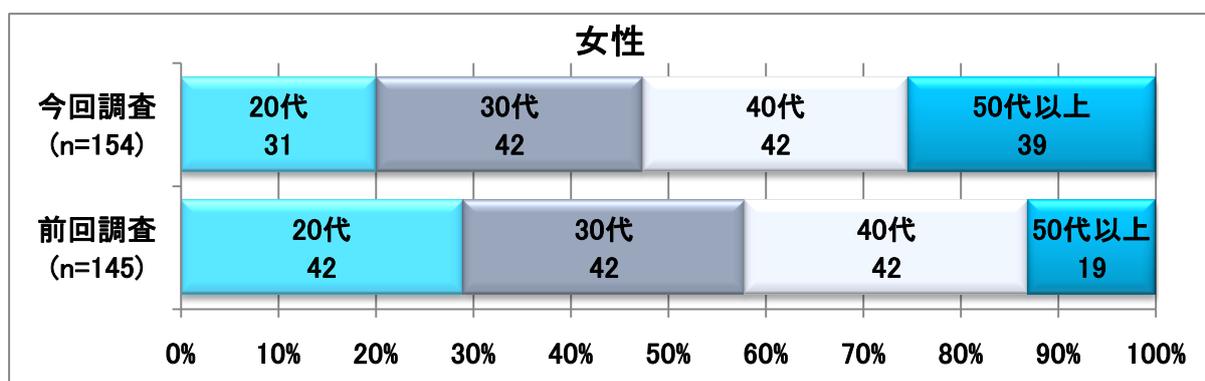
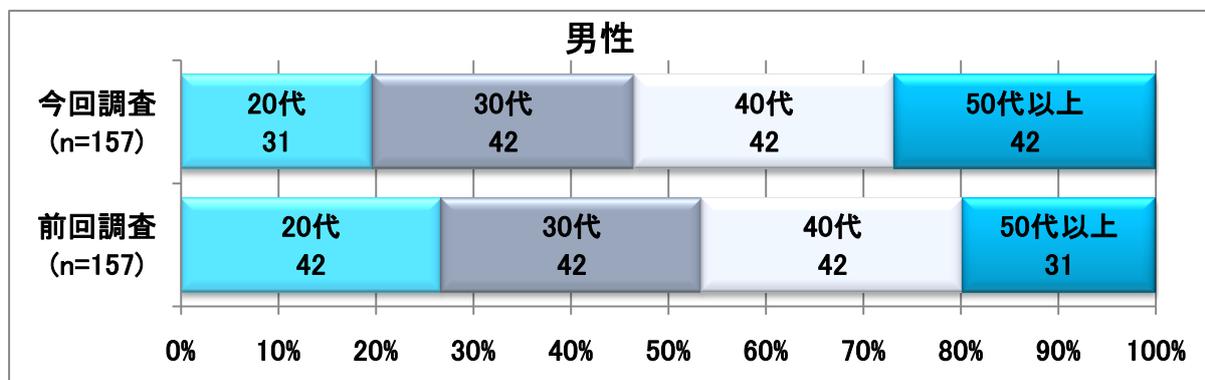
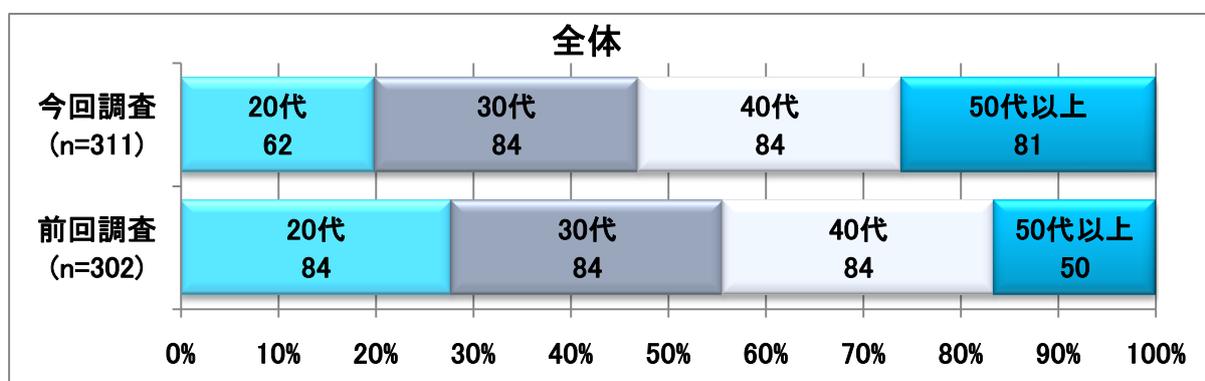


◆ 前回調査との比較

前回調査(平成21(2009)年6月に実施したインターネットによる公共施設に関するアンケート調査。以下同じ。)の回答者は、次図に示すとおり20代が27.8%、50代以上が16.6%を占めていましたが、今回の調査では、20代が19.9%、50代以上が26.0%となっています。

回答者の年代別構成を変えた理由は、不特定の市民が利用する公共施設の利用者は、50代以上が多くを占めています(平成21(2009)年4月に実施した公共施設利用者アンケート調査では、回答者の76.9%を占めている)。

前回の調査では、調査会社に会員登録している50代以上の市民が少なかったため、少なくせざるを得ませんでした。インターネットに親しむ中高年齢層が多くなっていることから、今回の調査では、調査会社に登録している50代以上の市民の数が増えていたため、利用者の多い世代の声が反映されやすい年代別構成としたものです。

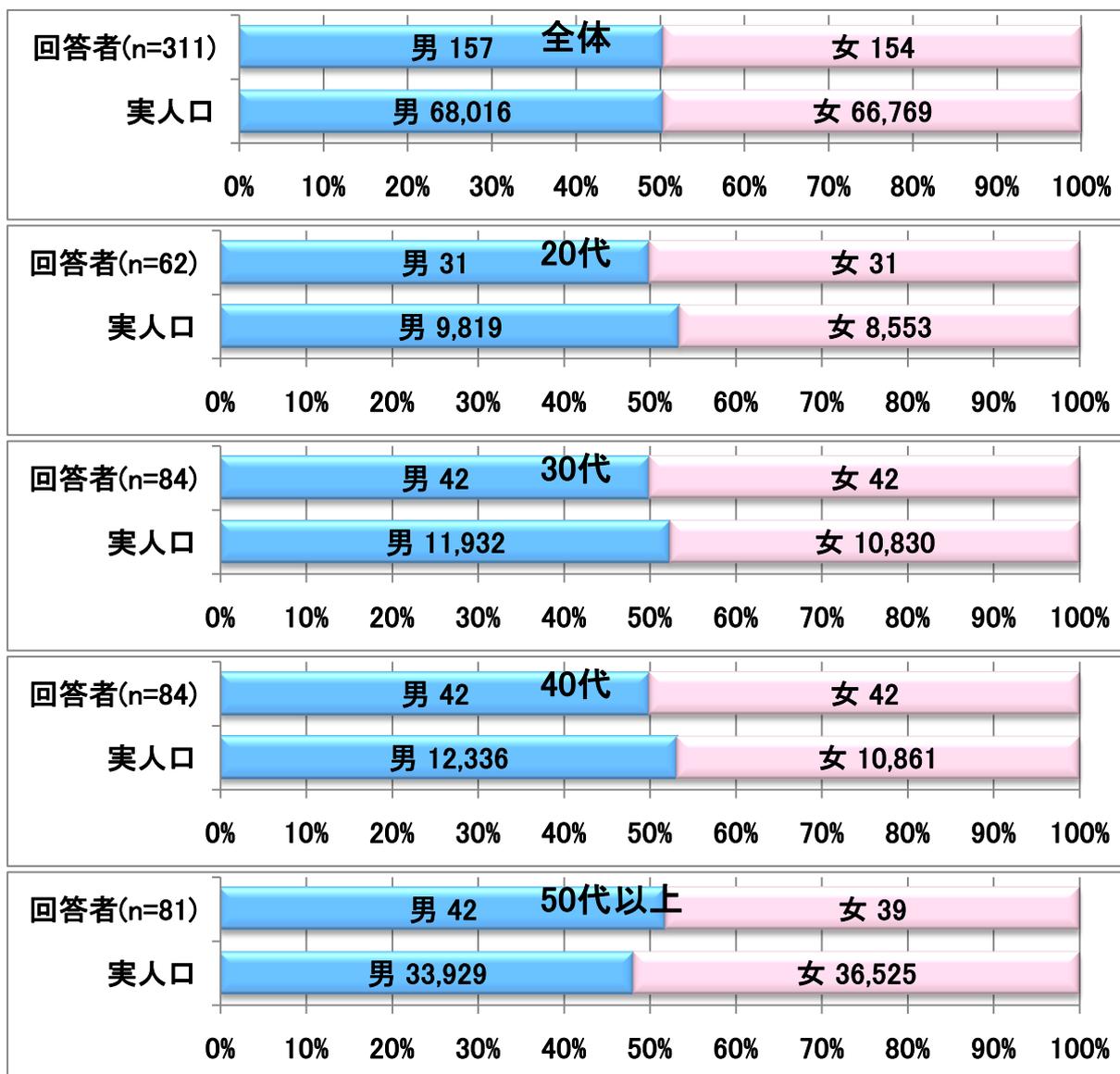
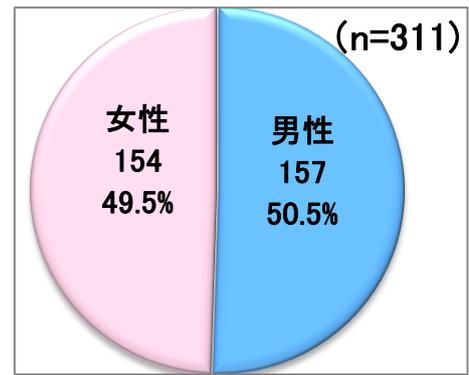


属性2 性別

◆ 男女同数の回収を目指しましたが、50代以上の女性の会員登録数が少ないため、男性と合わせて標準数の80サンプルを上回った時点で締め切りました。

◆ 実人口との比較

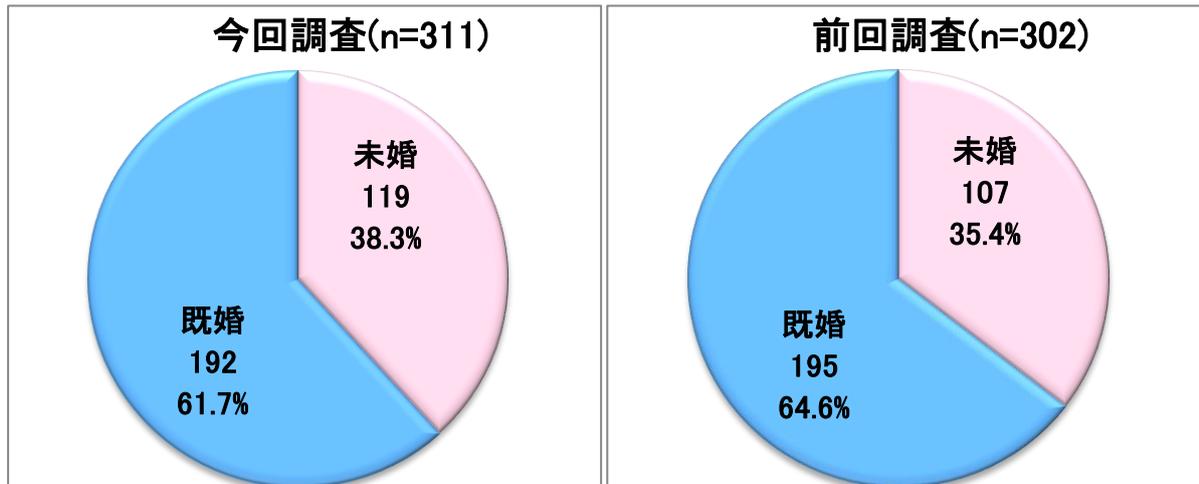
実人口と回答者の年代別割合を比較すると、次に示すとおり、回答者は、20代から40代までは同数。50代以上では男性の割合が高くなっています。実人口では、20代から40代までは男性の割合が高く、50代以上では女性の割合が高くなっています。なお、合計では、回答者の男女別割合は、実人口とほぼ同じとなっています。



属性3 未既婚

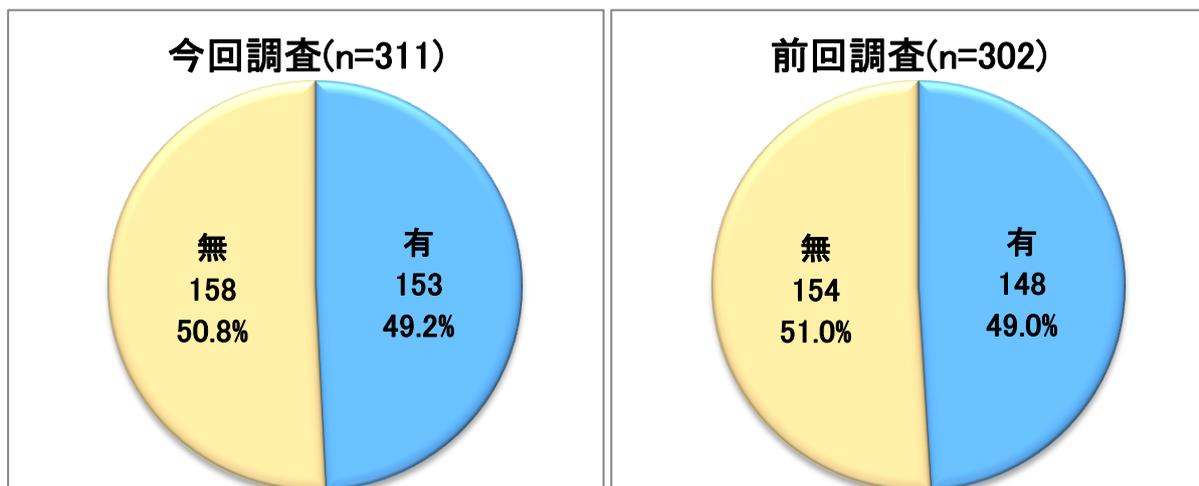
◆ 既婚者のほうが多い結果となりました。また、前回調査と比較すると、既婚者の

割合がおよそ3ポイント低くなっています。



属性4 子供の有無

◆ 有無については、ほぼ同じ割合となりました。前回調査と比較して、変化はほとんどありませんでした。



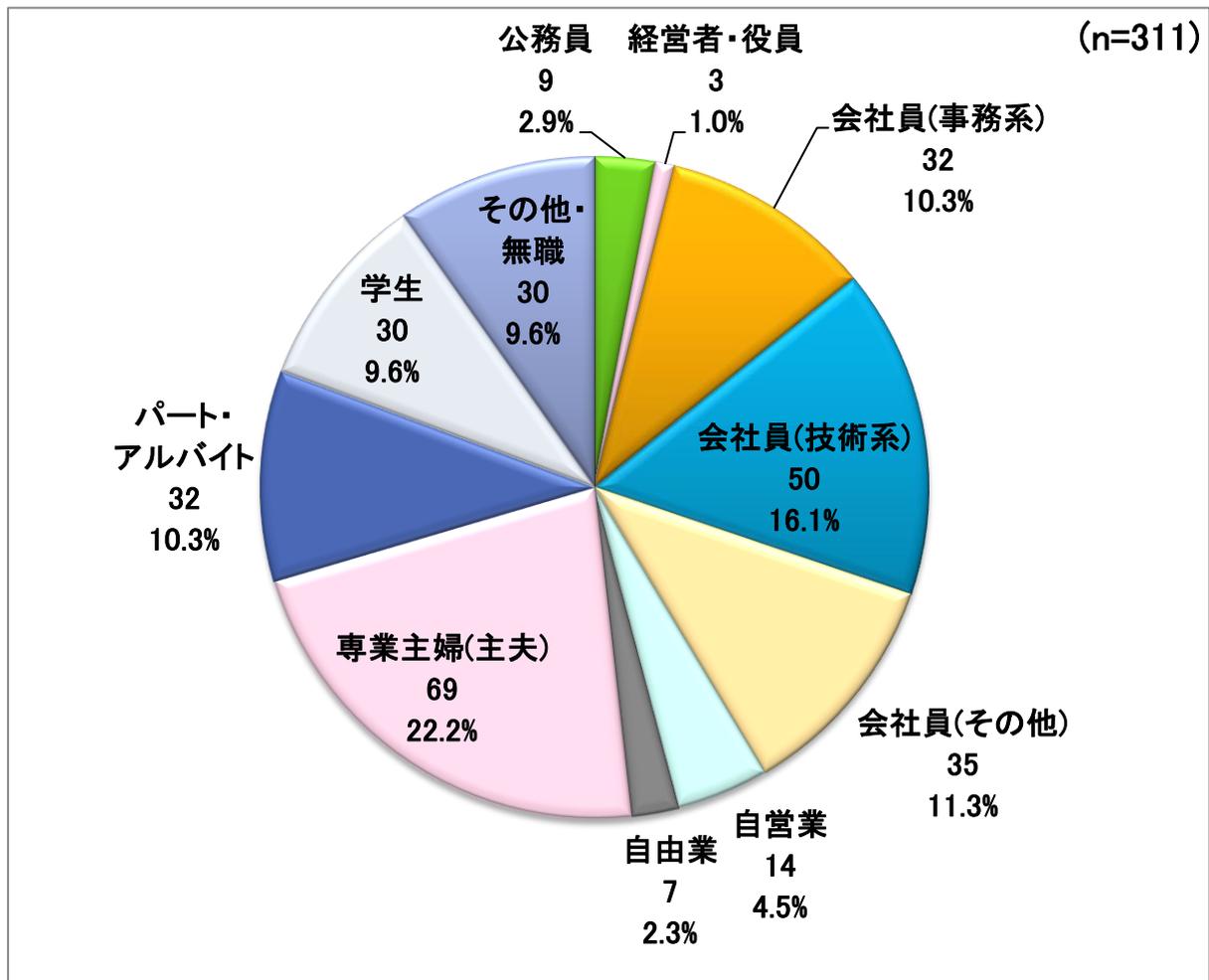
属性5 職業

◆ 回答者の職業は、専業主婦(主夫)の割合が最も高く、次いで会社員(技術系)、会社員(その他)となっています。逆に最も低いのは、経営者・役員となり、次いで自由業、公務員となっています。

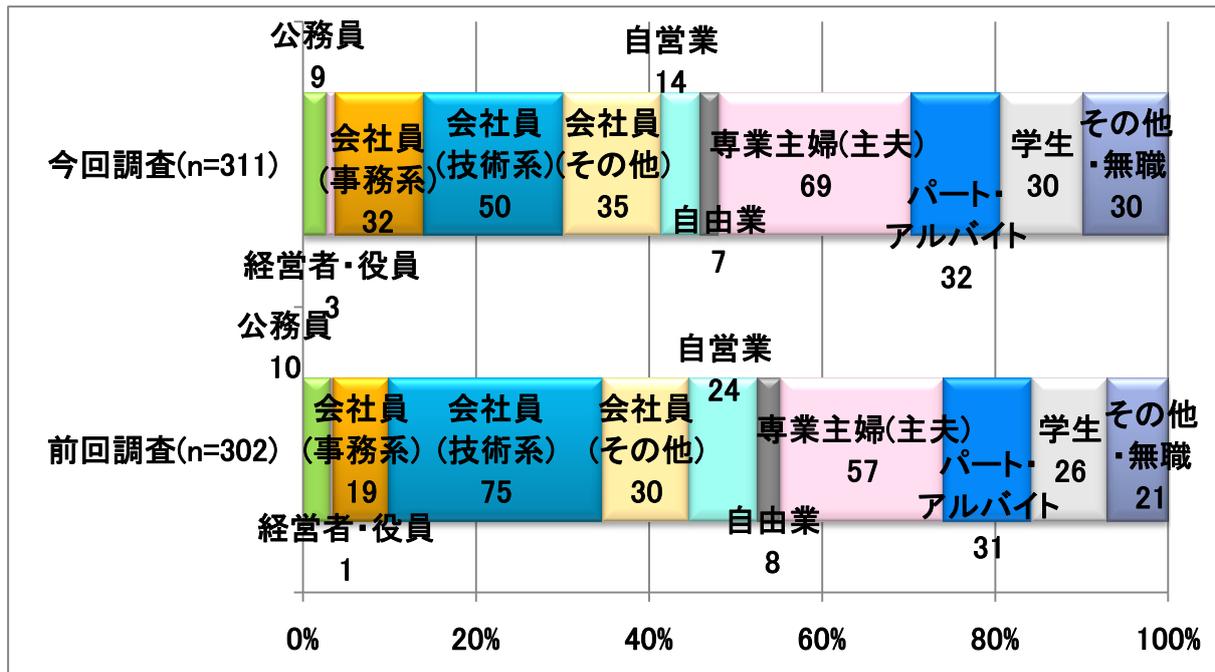
前回調査と比較すると、次に示すとおり割合が増えたのは、多い順に会社員(事務系)が4.0ポイント、専業主婦(主夫)が3.3ポイント、その他・無職2.6ポイント、会社員(その他)が1.4ポイント、学生1.0ポイント、経営者・役員0.7ポイントとなっています。

逆に減ったのは、会社員(技術系)が8.7ポイント、自営業が3.4ポイント、公務員0.4ポイント、自由業0.3ポイントとなっています。

また、公務員の区分から自営業までを合計すると、前回調査では52.6%でしたが、今回調査では46.0%となり、6.6ポイント減少しています。



調査区分 職業区分	今回調査		前回調査	
	回答者数	割合 (%)	回答者数	割合 (%)
公務員	9	2.9	10	3.3
経営者・役員	3	1.0	1	0.3
会社員(事務系)	32	10.3	19	6.3
会社員(技術系)	50	16.1	75	24.8
会社員(その他)	35	11.3	30	9.9
自営業	14	4.5	24	7.9
自由業	7	2.3	8	2.6
専業主婦(主夫)	69	22.2	57	18.9
パート・アルバイト	32	10.3	31	10.3
学生	30	9.6	26	8.6
その他・無職	30	9.6	21	7.0
全体	311	100.0	302	100.0



5 設問及び回答内容並びに分析結果

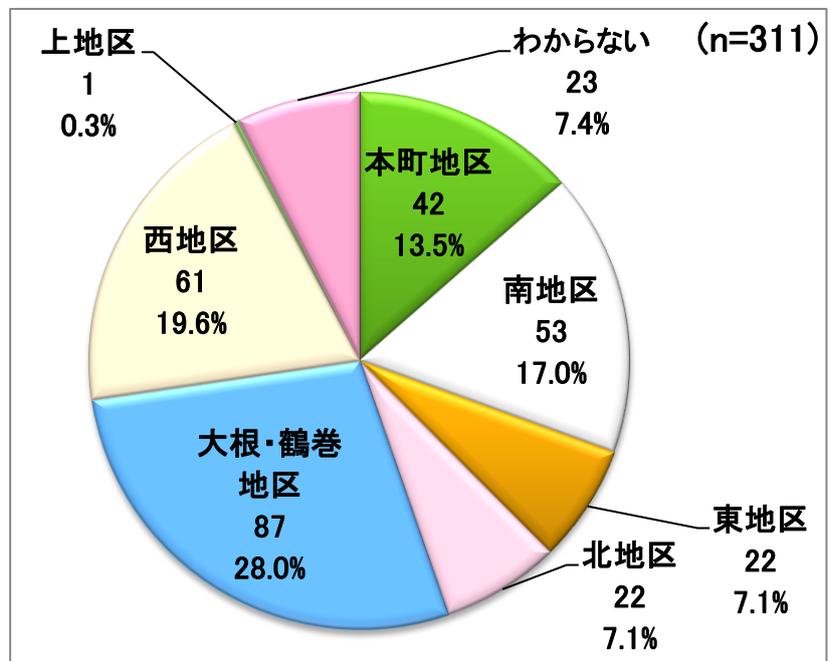
質問1 あなたが居住している地区を教えてください。

- ◆ 大根・鶴巻地区と回答した者が最も多く、次いで西地区、南地区となりました。また、逆に少ないのは、上地区、東地区、北地区となりました。

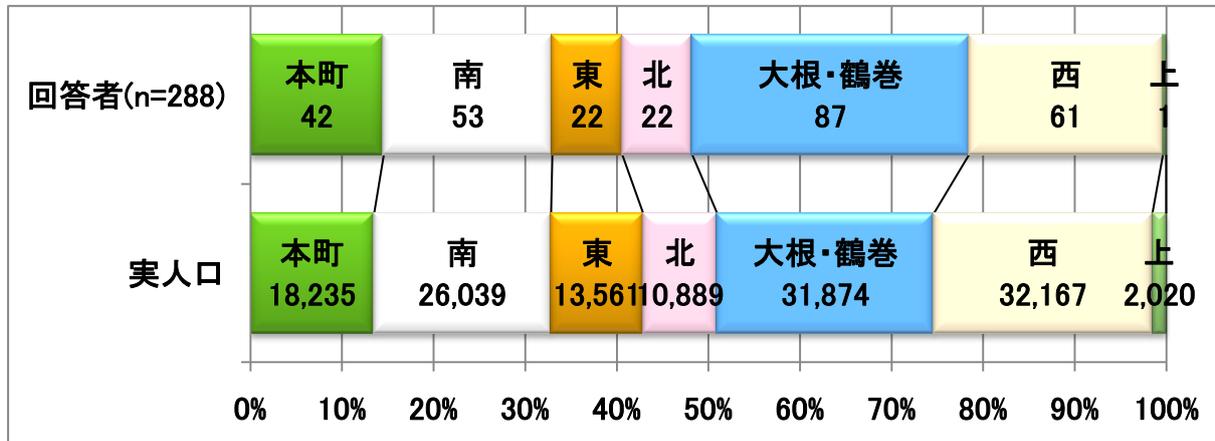
上記の結果のうち、「わからない」と回答した者を除き、実人口割合と比較すると以下のとおりとなりました。

実人口割合よりも回答者の割合が高い

のは、本町地区、大根・鶴巻地区となっています。特に大根・鶴巻地区では、6.6ポイント高くなっています。また、逆に低いのは、南地区、東地区、北地区、西地区、上地区となり、西地区では、2.7ポイント低くなっています。

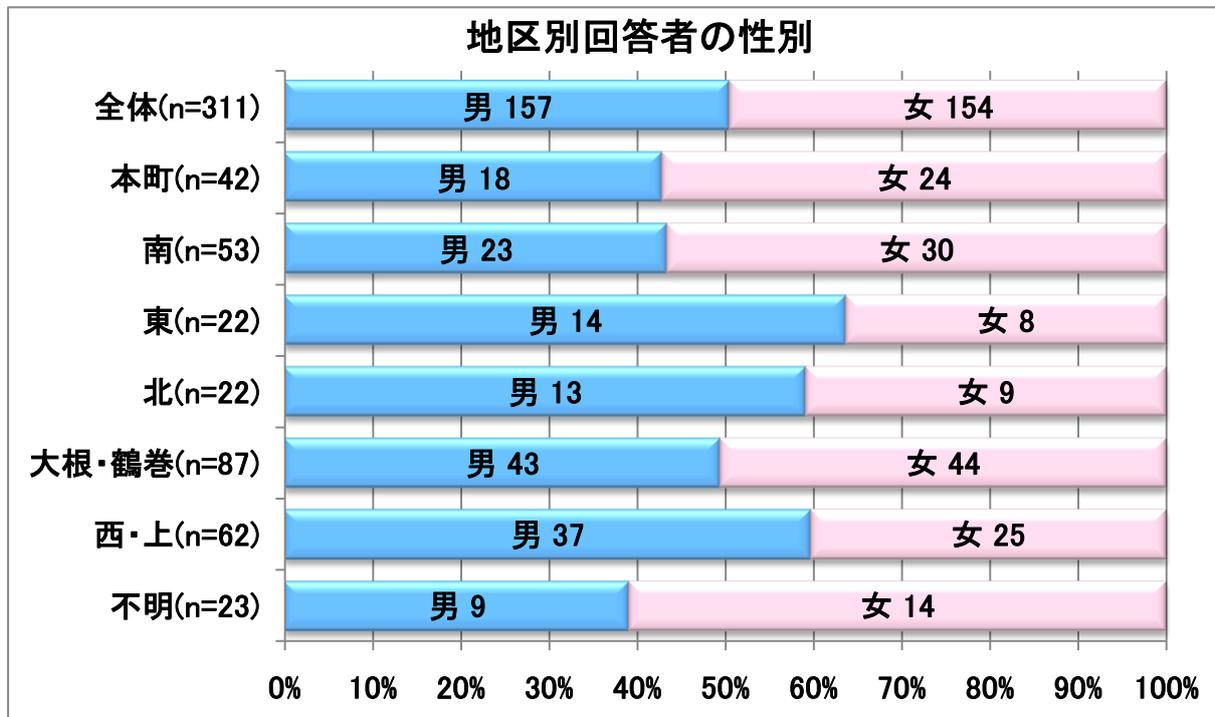


区分 \ 地区	本町	南	東	北	大根 鶴巻	西	上	合計
回答者割合 (%)	14.6	18.4	7.6	7.6	30.2	21.2	0.3	100.0
実人口割合 (%)	13.5	19.3	10.1	8.1	23.6	23.9	1.5	100.0



◆ 地区別の回答者の性別

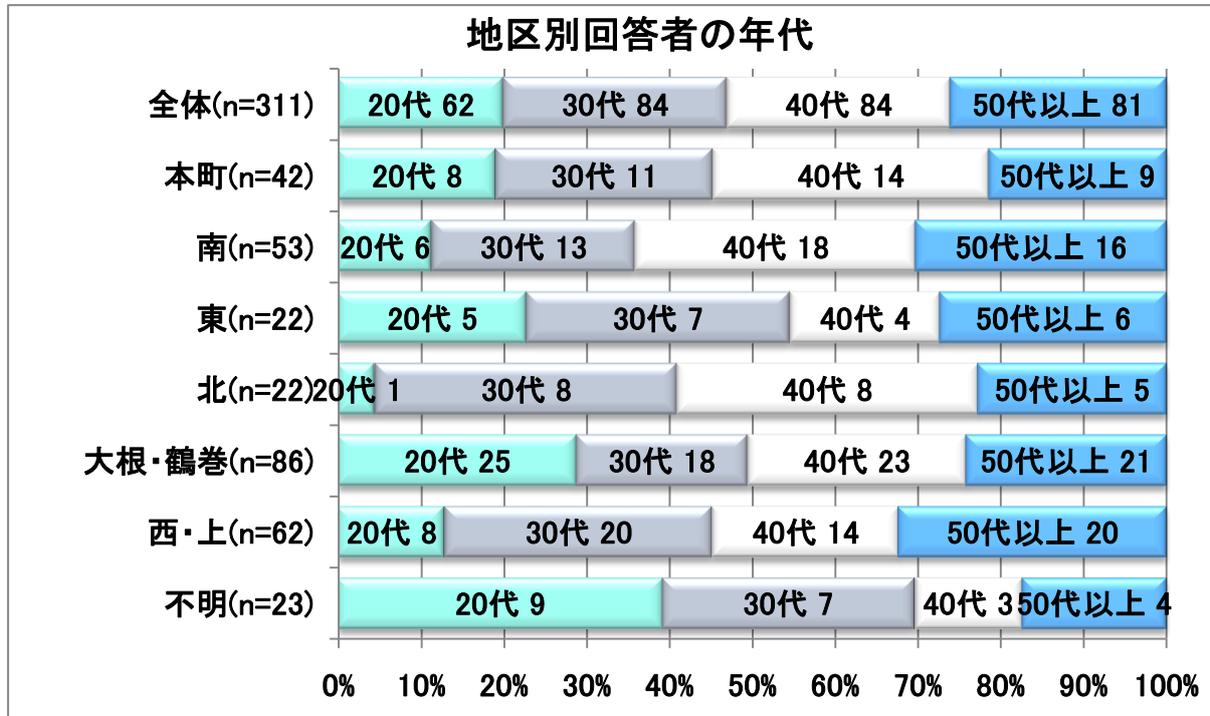
男性の回答者割合が高かったのは、東地区(63.6%)、北地区(59.1%)、西・上地区(59.7%)、女性のほうが高かったのは、本町地区(57.1%)、南地区(56.6%)、大根・鶴巻地区(50.6%)となっています。



◆ 地区別の回答者の年代

20代の回答者割合が高かったのは東地区(22.7%)、大根・鶴巻地区(29.1%)、

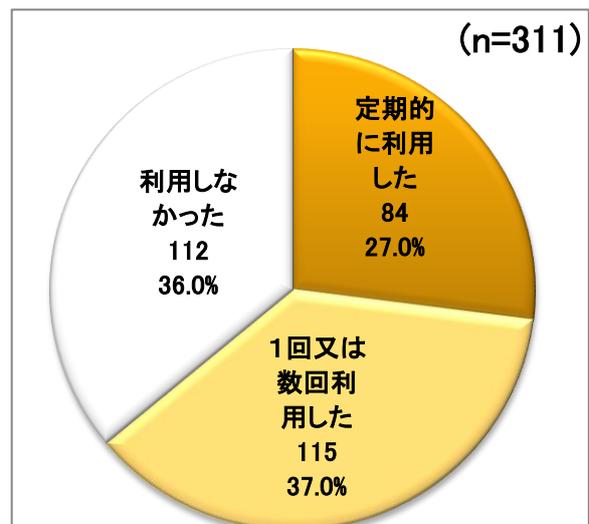
30代の回答者割合が高かったのは東地区(31.8%)、北地区(36.4%)、西・上地区(32.3%)、40代の回答者割合が高かったのは本町地区(33.3%)、南地区(34.0%)、北地区(36.4%)、50代以上の回答者割合が高かったのは南地区(30.2%)、東地区(27.3%)、西・上地区(32.3%)などとなっています。

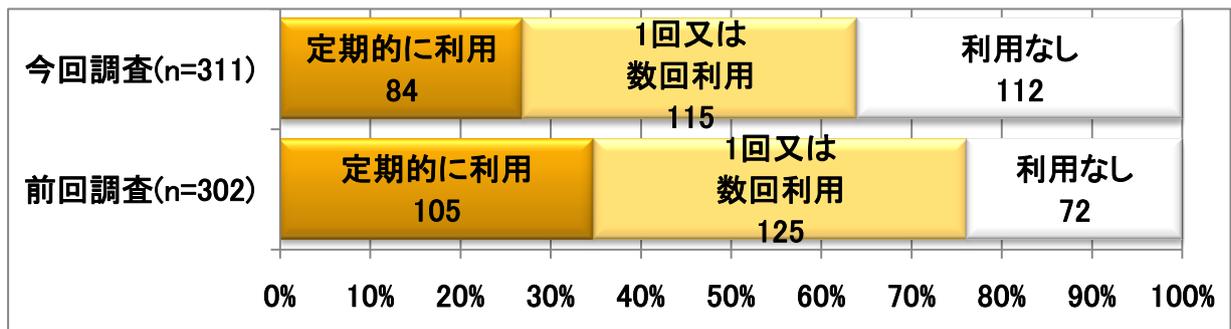


質問2 あなたは、過去1年間に総合体育館、文化会館、図書館、公民館、児童館のように、不特定の市民が利用することができる秦野市立の公共施設を利用しましたか。(公園のように職員が常駐していない施設は除きます。)

◆ 最も多かったのは、「1回又は複数回利用した」と回答した者となり、逆に最も少なかったのは、「定期的にご利用した」と回答した者となりました。

◆ 前回調査との比較
 前回調査との比較では、「定期的にご利用した」と回答した者の割合は7.8ポイント、「1回又は複数回利用した」と回答した者の割合は4.4ポイント減り、「利用しなかった」と回答した者の割合が12.2ポイント増えています。



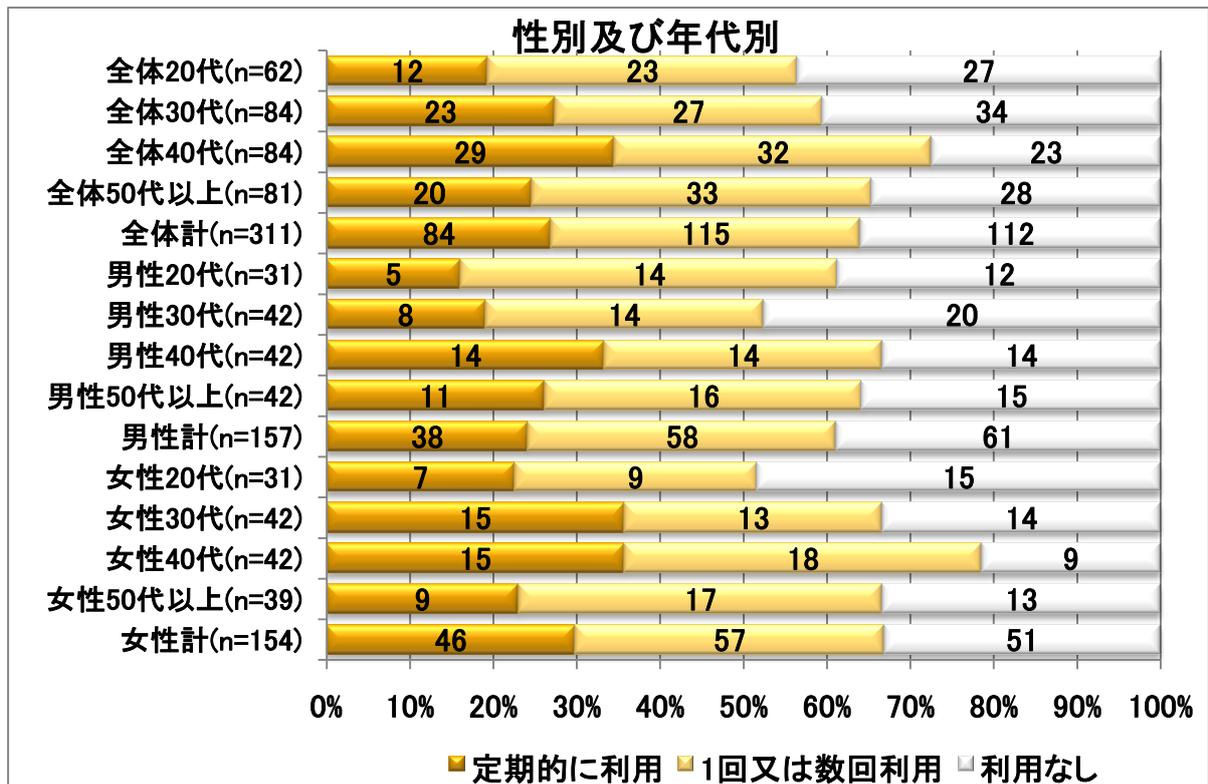


◆ 性別及び年代別の比較

「定期的にご利用した」と回答した者の割合が最も高かったのは、性別では女性、年代では40代となり、30代及び40代の女性の35.7%が最高となりました。

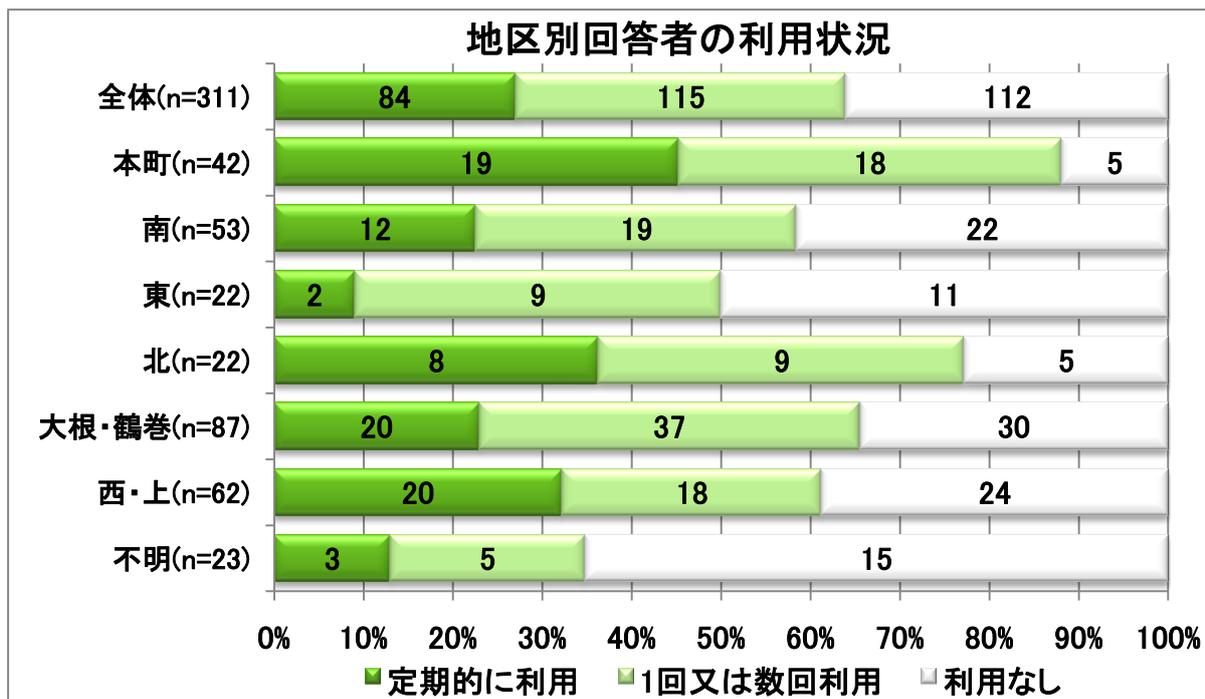
「1回又は数回ご利用した」と回答した者の割合が最も高かったのは、性別では女性、年代では50代以上となり、50代以上の女性の43.6%が最高となりました。

また、「利用しなかった」と回答した者の割合が最も高かったのは、性別では男性、年代では20代となり、20代の女性の48.4%が最高となりました。



◆ 地区別の比較

「定期的にご利用した」と回答した者の割合が最も高いのは本町地区(45.2%)、次いで北地区(36.4%)となりました。また、「1回又は数回ご利用した」と回答した者の割合が最も高いのも本町地区(42.9%)、次いで大根・鶴巻地区(42.5%)であり、本町地区については、両者を合わせて9割近くの回答者が公共施設を利用したと回答しています。逆に「利用しなかった」と回答した者の割合が最も高いのは、東地区(50.0%)、次いで南地区(41.5%)となりました。



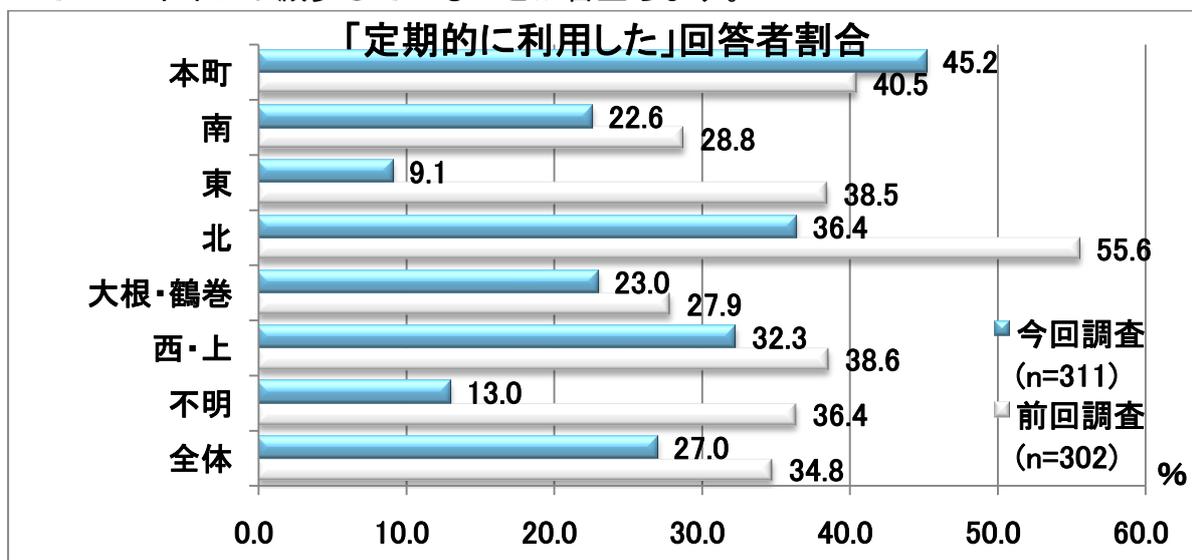
◆ 地区別の前回調査との比較

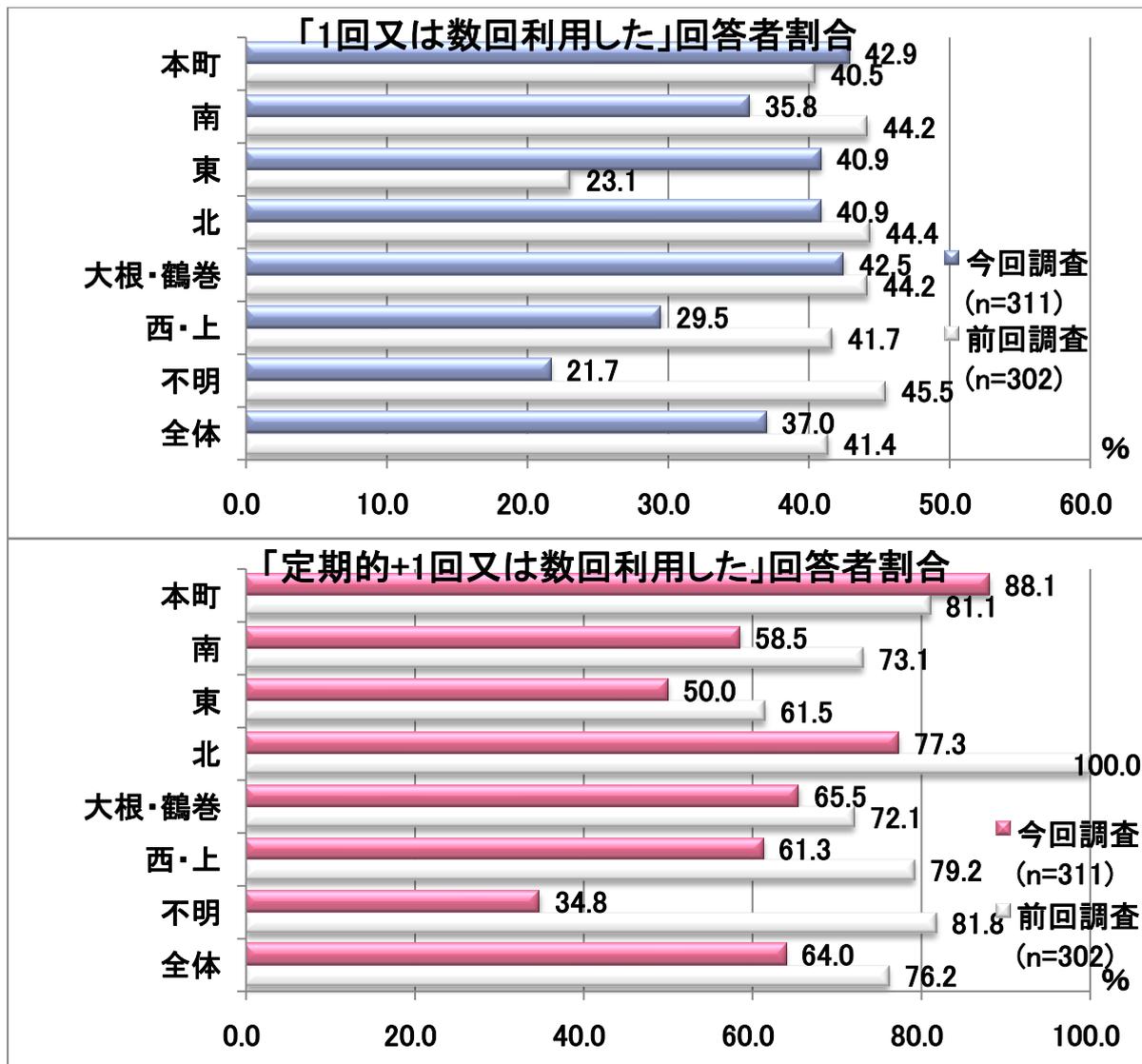
地区別の集計結果を前回調査の結果と比較すると、次に表すとおりとなります。

「定期的にご利用した」と回答した者の割合が増えたのは、本町地区のみであり、4.7ポイント増加しています。他の全地区で減少していますが、中でも東地区では29.4ポイント、北地区では19.2ポイントと、大きく減少しています。

また、「1回又は数回利用した」と回答した者の割合は、東地区で17.8ポイント、本町地区で4.7ポイント増加しています。他の地区では減少していますが、西・上地区で12.2ポイント、南地区で8.4ポイント減少しているのが目立ちます。

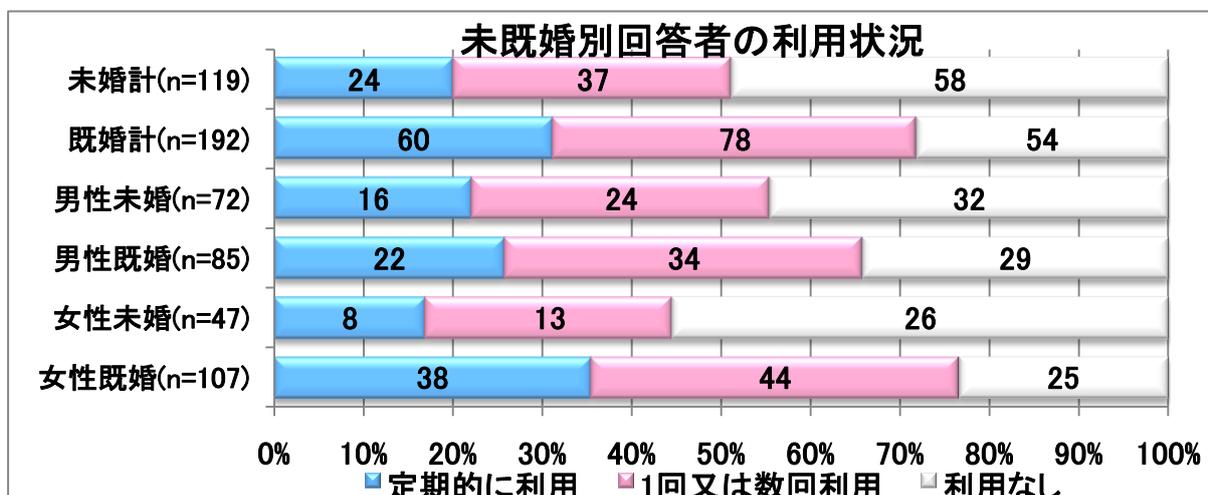
両者を合計すると、増加しているのは本町地区だけであり、7.0ポイント増加しています。他の全地区で減少していますが、北地区で22.7ポイント、西・上地区で17.9ポイント減少していることが目立ちます。





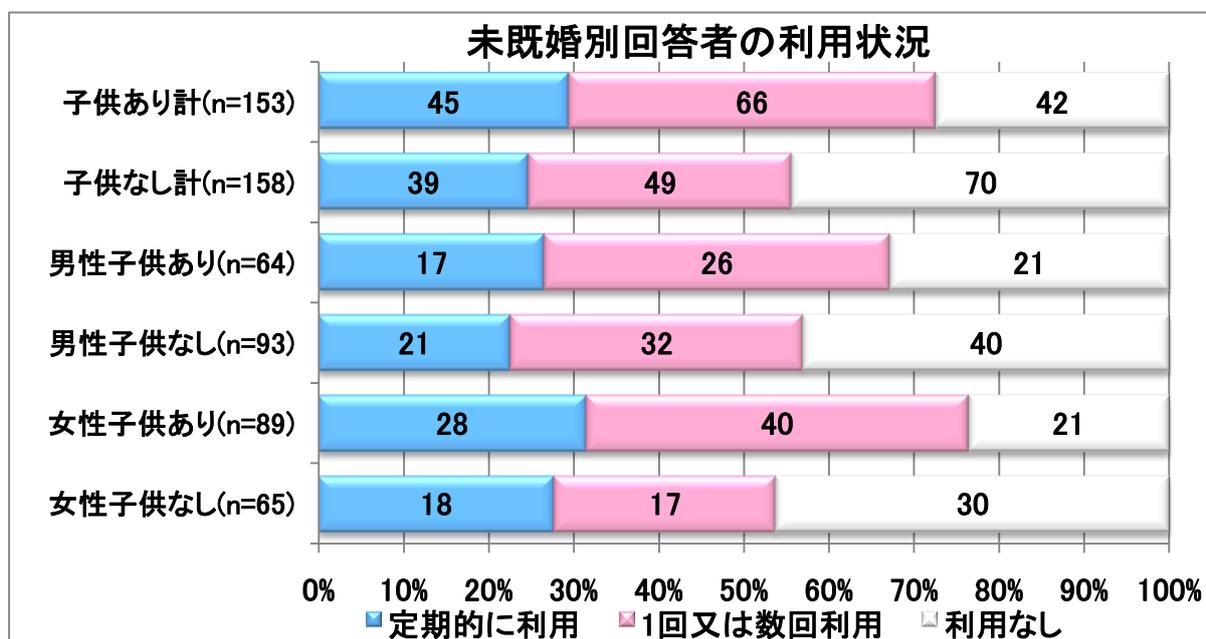
◆ 未既婚別の比較

「定期的にご利用した」、「1回又は数回ご利用した」と回答した者の割合は、全体、男女ともに既婚者のほうが高く、「利用しなかった」と回答した者の割合は、未婚者の中でも特に女性が高くなっています。



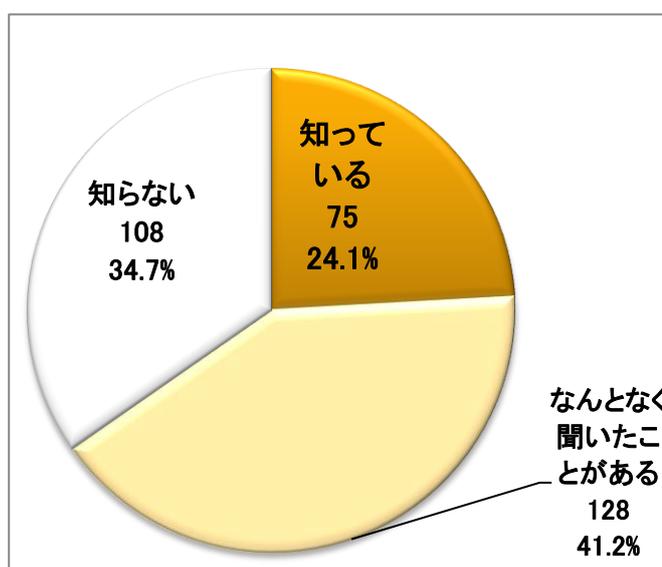
◆ 子供の有無別の比較

「定期的に利用した」、「1回又は数回利用した」と回答した者の割合は、全体、男女ともに子供ありと回答した者のほうが高く、「利用しなかった」と回答した者の割合は、未婚者の中でも特に女性が高くなっています。



質問3 日本では、昭和40年代から50年代にかけて、高度経済成長や都市化の進展に伴い、道路や橋を含めた公共施設を一斉に整備しました。現在これらの公共施設は、一斉に老朽化しつつあり、また、近い将来、一斉に作り直さなければいけない時期を迎えますが、住民の高齢化と人口減少が進む中で財政状況は悪化し、すべての公共施設を維持することが難しくなります。このことは、「公共施設の更新問題（老朽化問題）」と言われていますが、あなたは、このことをご存知でしたか。

◆ 「知っている」、「なんとなく聞いたことがある」と答えた者の割合が3分の2近くを占めました。調査が中央道トンネル天井崩落事故の直後であったためか、老朽化問題に対する認知度の高さがうかがえます。



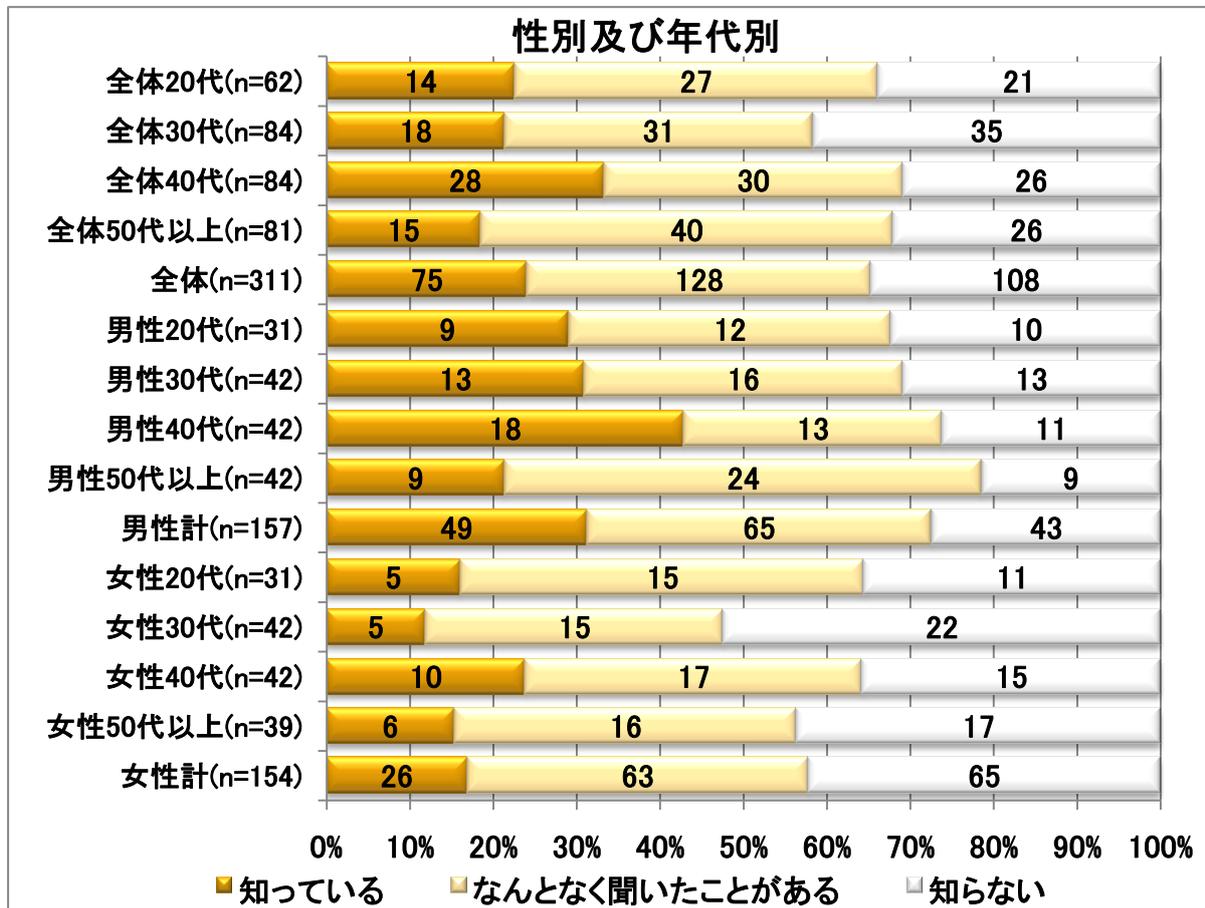
◆ 性別及び年代別の比較

「知っている」と回答した者の割合が最も高かったのは、性別では男性、年代では40代となり、

40代の男性の42.9%が最高となりました。

「なんとなく聞いたことがある」と回答した者の割合が最も高かったのは、性別は男性、年代は50代以上となり、50代以上の男性の57.1%が最高となりました。

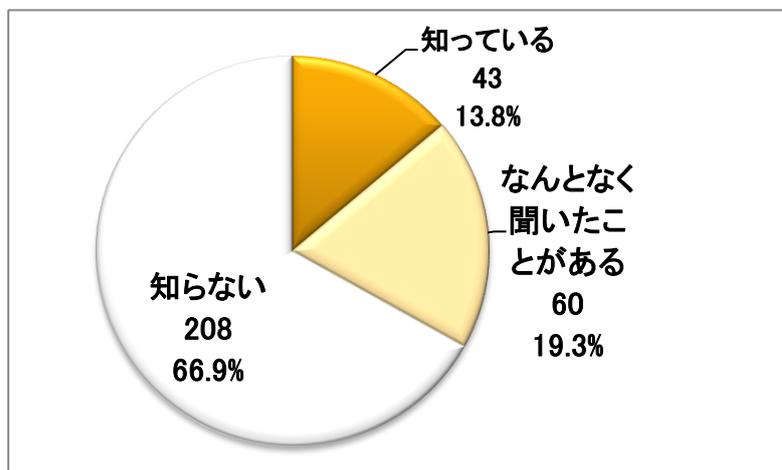
また、「知らない」と回答した者の割合が最も高かったのは、性別では女性、年代では30代となり、30代の女性の52.4%が最高となりました。



質問4 現在秦野市は、この「公共施設の更新問題(老朽化問題)」に対応するため、「公共施設の再配置」を進めています。あなたは、このことをご存知でしたか。

◆ 「知っている」と「なんとなく聞いたことがある」と回答した者を合わせると、およそ3分の1の市民が本市の取組みを認知していました。

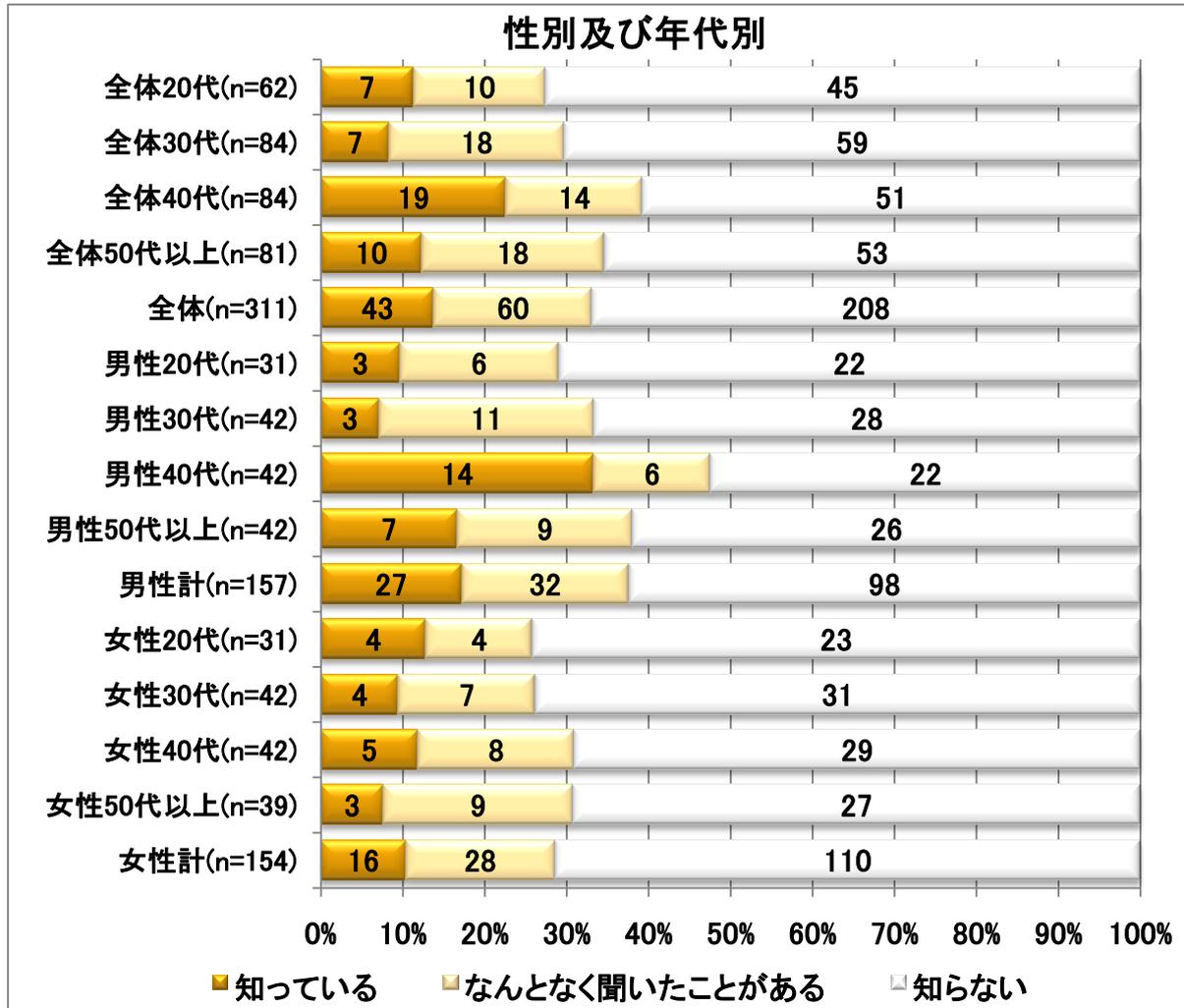
◆ 性別及び年代別の比較
「知っている」と回答し



た者の割合が最も高かったのは、性別では男性、年代では40代となり、40代の男性の33.3%が最高となりました。

「なんとなく聞いたことがある」と回答した者の割合が最も高かったのは、性別では男性、年代では50代以上となり、30代の男性の26.2%が最高となりました。

また、「知らない」と回答した者の割合が最も高かったのは、性別では女性、年代では20代となり、20代の女性の74.2%が最高となりました。

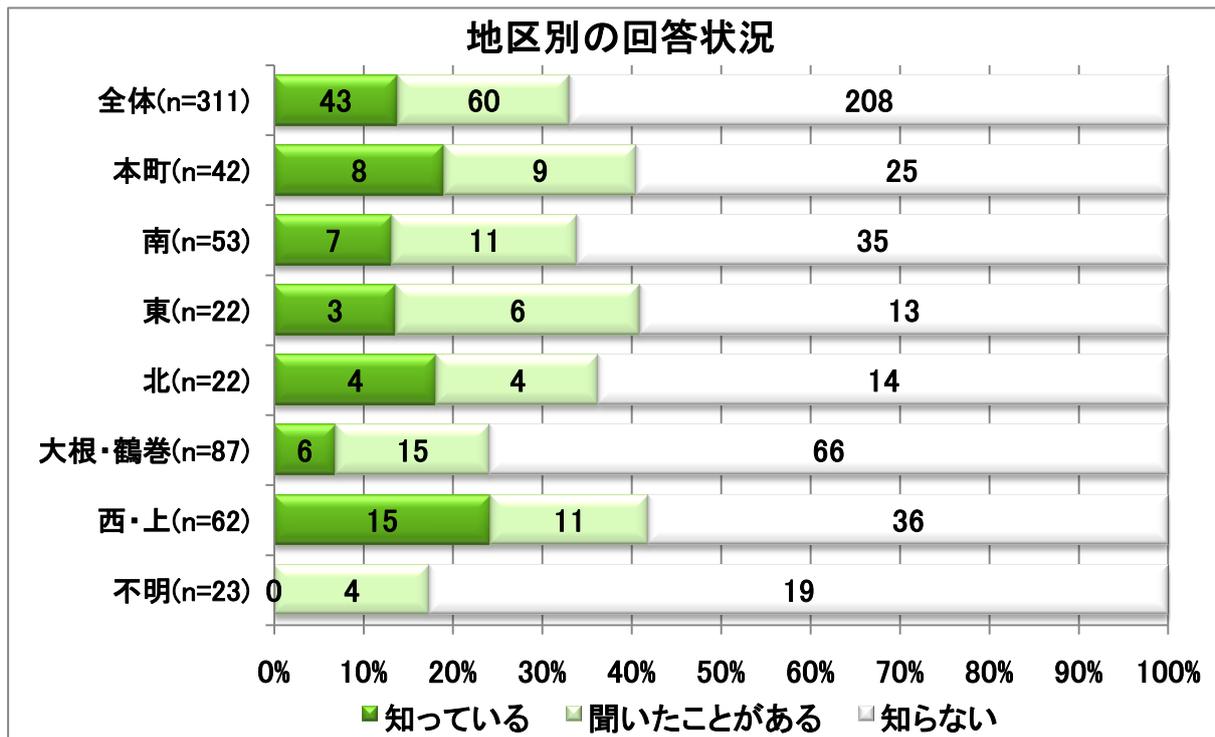


◆ 地区別の比較

「知っている」と回答した者の割合が最も高かったのは、義務教育施設と地域施設の複合化というシンボル事業が具体的になりつつある西・上地区となりました。

また、「なんとなく聞いたことがある」と回答した者の割合が最も高かったのは東地区となり、両者を合わせて最も認知度が高いのも西・上地区となりました。

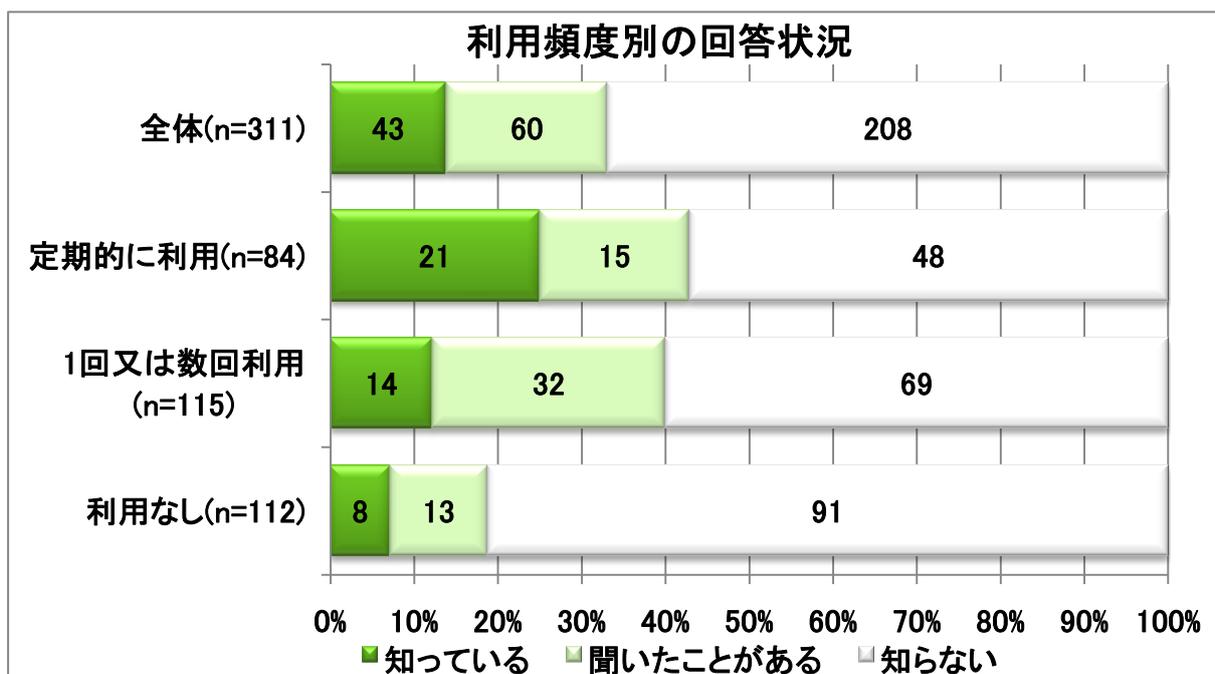
なお、「知らない」と回答した者の割合が最も高かったのは、大根・鶴巻地区となりました。



◆ 公共施設利用頻度別の比較

「知っている」と回答した者の割合が最も高いのは、過去 1 年間で公共施設を定期的に利用している回答者であり、「聞いたことがある」と回答した者の割合が最も高いのは、公共施設を「1 回又は数回利用した」回答者となりました。

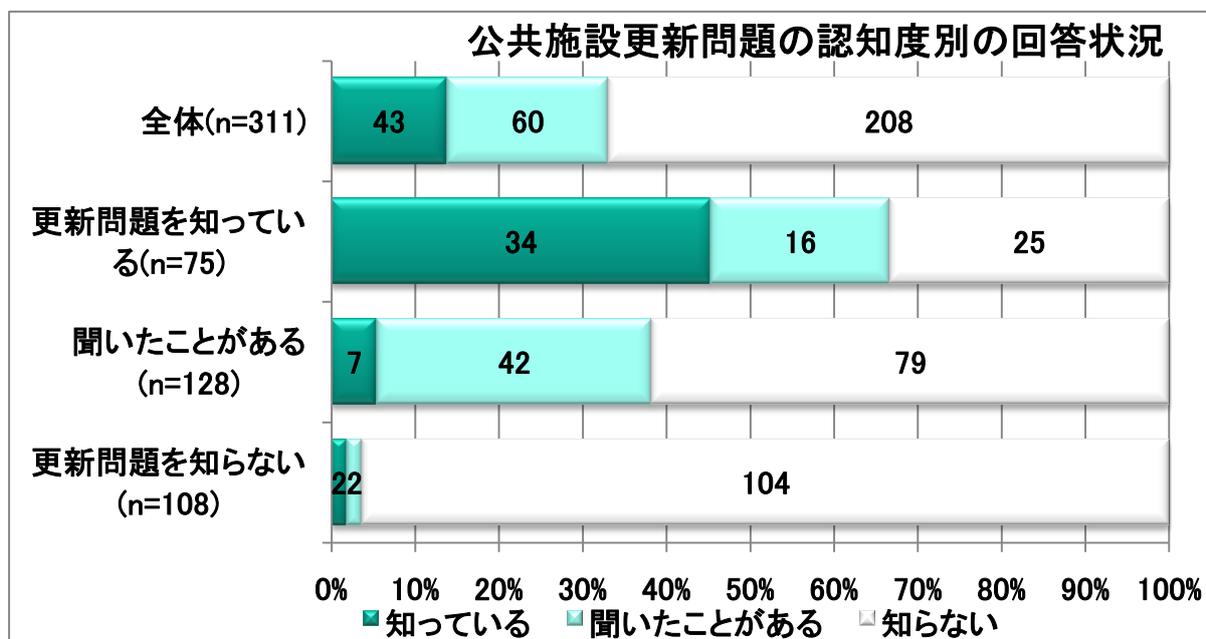
両者を合わせると、「定期的に利用した」と回答した者の 42.9%が本市の取組みを認知している結果となりました。



◆ 更新問題認知度別の比較

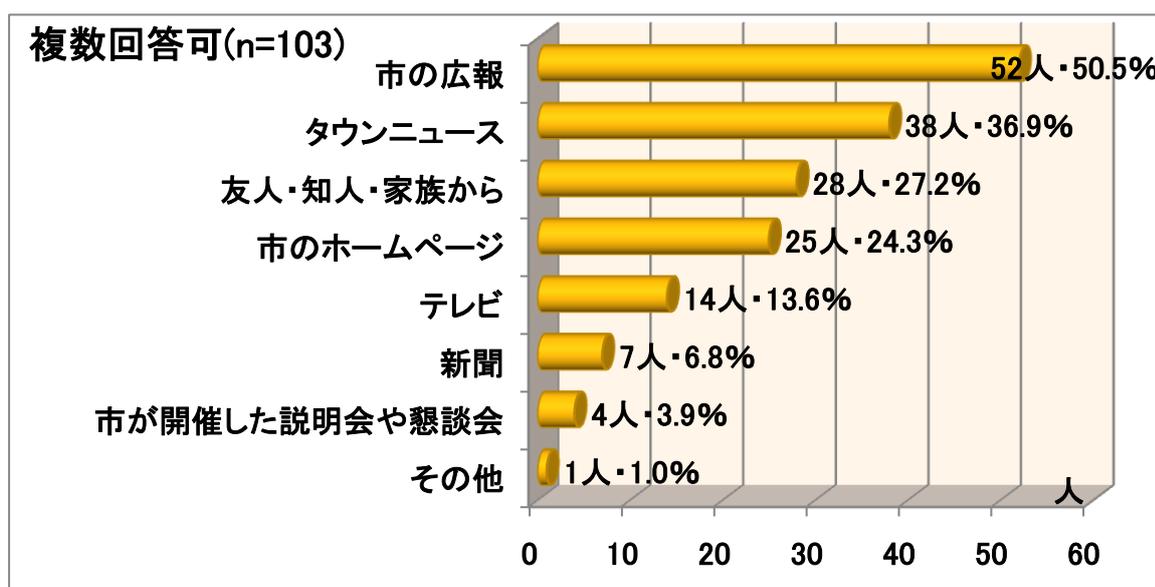
本市の取組みを「知っている」と答えた者の割合が最も高いのは、更新問題も知っていると回答した者となり、本市の取組みを「聞いたことがある」と答えた者の割合が最も高いのは、更新問題を聞いたことがあると回答した者となりました。

両者を合わせた割合が最も高いのは、更新問題を知っていると回答した者の66.7%となりました。



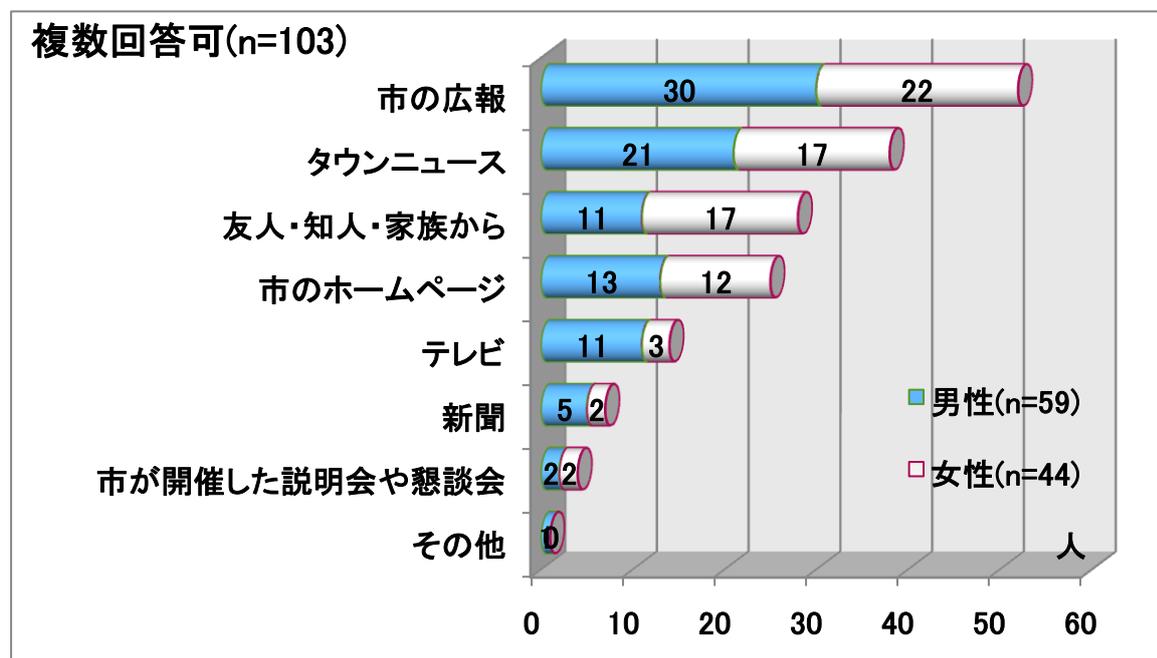
質問5 前問で「知っている」又は「なんとなく聞いたことがある」とお答えした方にうかがいます。あなたは、何でそのことを見聞きしましたか。

◆ 市の広報を通じて見聞きした者が最も多くなり、次いでタウン紙となりました。



◆ 性別の比較

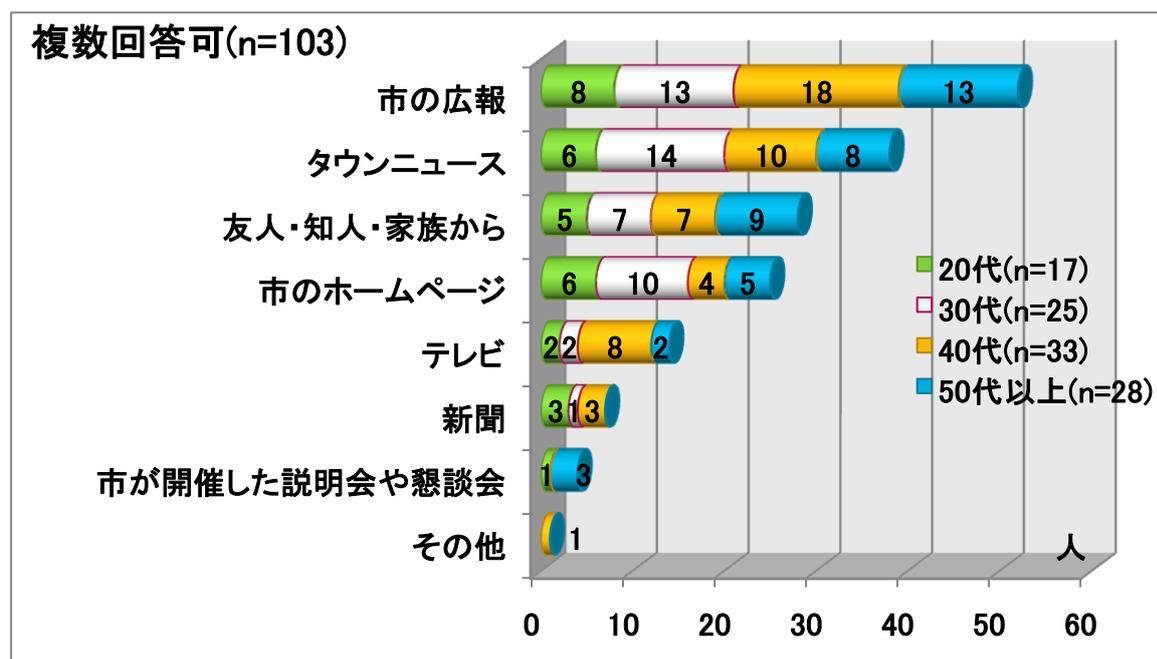
「友人・知人・家族から」見聞きしたと回答した者のみ、女性が男性を上回っています。



◆ 年代別の比較

20代、40代、50代以上では「市の広報」、30代では「タウンニュース」が最も多くなりました。

また、それぞれの媒体別では、市の広報、テレビは「40代」、タウンニュース、市のホームページは「30代」、友人・知人・家族から、市が開催した説明会や懇談会は「50代以上」、新聞は「20代」と「40代」となりました。



質問6 秦野市が進めている「公共施設の再配置」は、できるだけ施設の機能を維持する方法を考えながら、40年間で31%の公共施設を減らすことにより、人口減少と市民の高齢化が進む中でも、義務教育をはじめとする真に必要な高い公共施設サービスを、将来にわたり良好な状態で維持していこうとするものです。このことに対するあなたの考えに最も近いものを一つ選んでください。

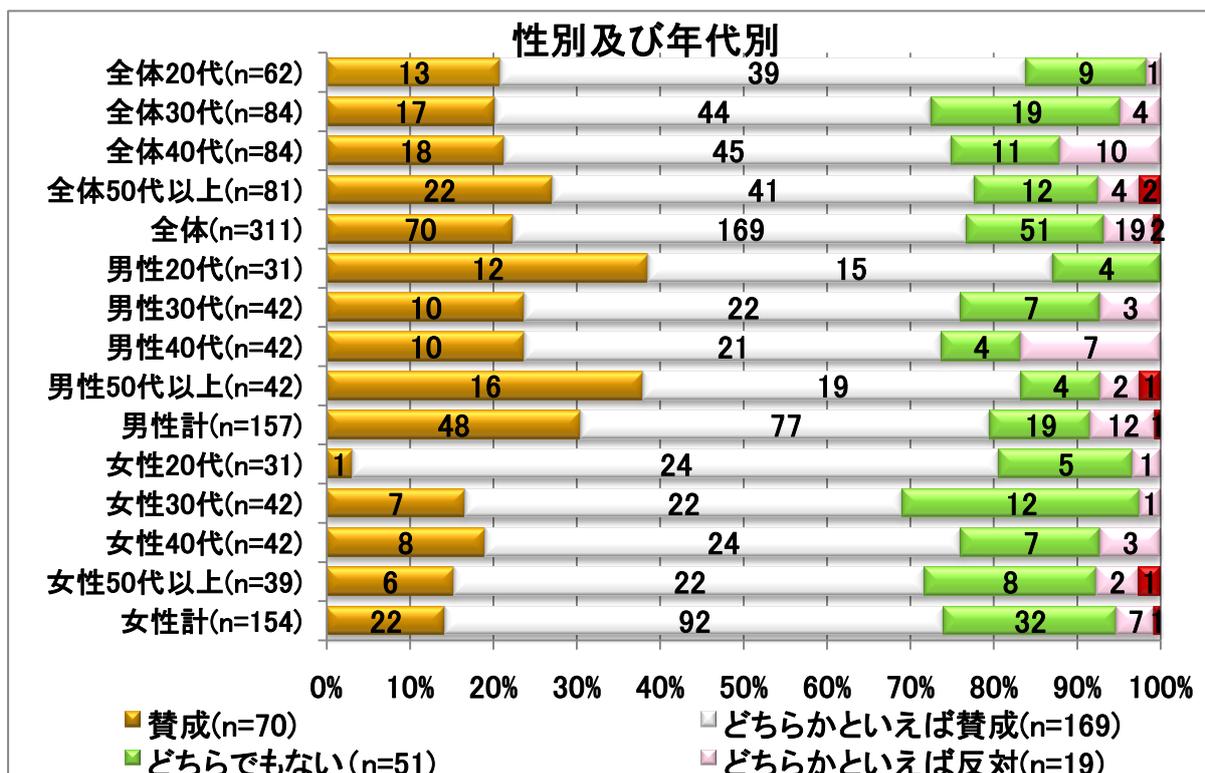
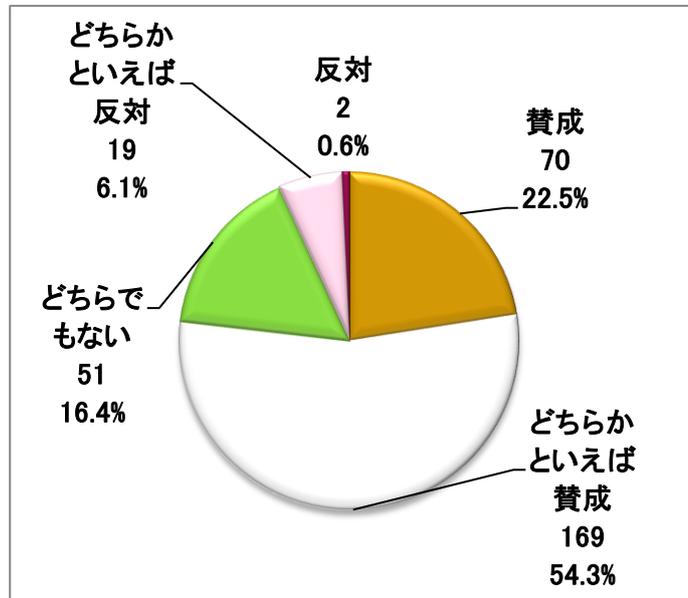
◆ 「賛成」、「どちらかといえば賛成」と回答した者の割合が、全体の4分の3を超える76.8%となり、「反対」、「どちらかといえば反対」と回答した者は、6.8%となりました。

◆ 性別及び年代別の比較

「賛成」と回答した者の割合が最も高かったのは、性別は男性、年代は50代以上となり、20代男性の38.7%が最高となりました。

「どちらかといえば賛成」と回答した者の割合が最も高かったのは、性別では女性、年代では20代となり、20代の女性の77.4%が最高となりました。

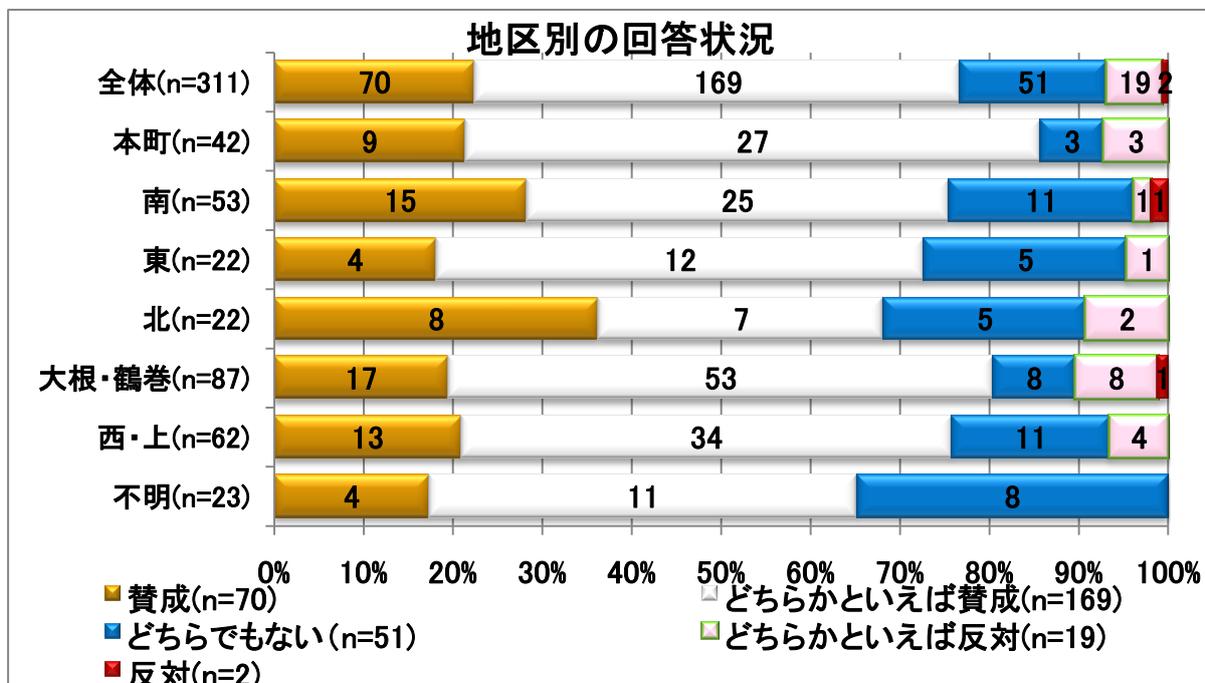
また、「どちらかといえば反対」と回答した者の割合が最も高かったのは、性別では女性、年代では30代となり、30代の女性の28.6%が最高となりました。



◆ 地区別の比較

「賛成」と回答した者の割合が最も高いのは北地区、「どちらかといえば賛成」と回答した者の割合が最も高いのは本町地区となりました。両者を合わせた割合が最も高いのも本町地区となりました。

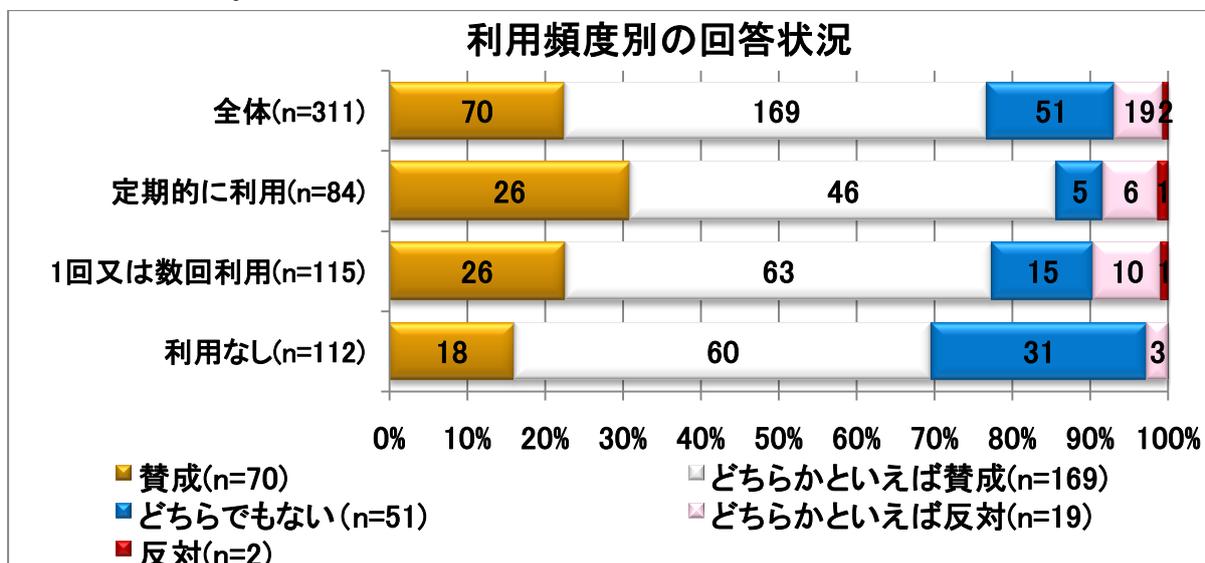
また、「どちらかといえば反対」と答えた者の割合が最も高いのは大根・鶴巻地区、「反対」と答えた者は、南地区と大根・鶴巻地区に1名ずつとなっています。



◆ 公共施設利用頻度別の比較

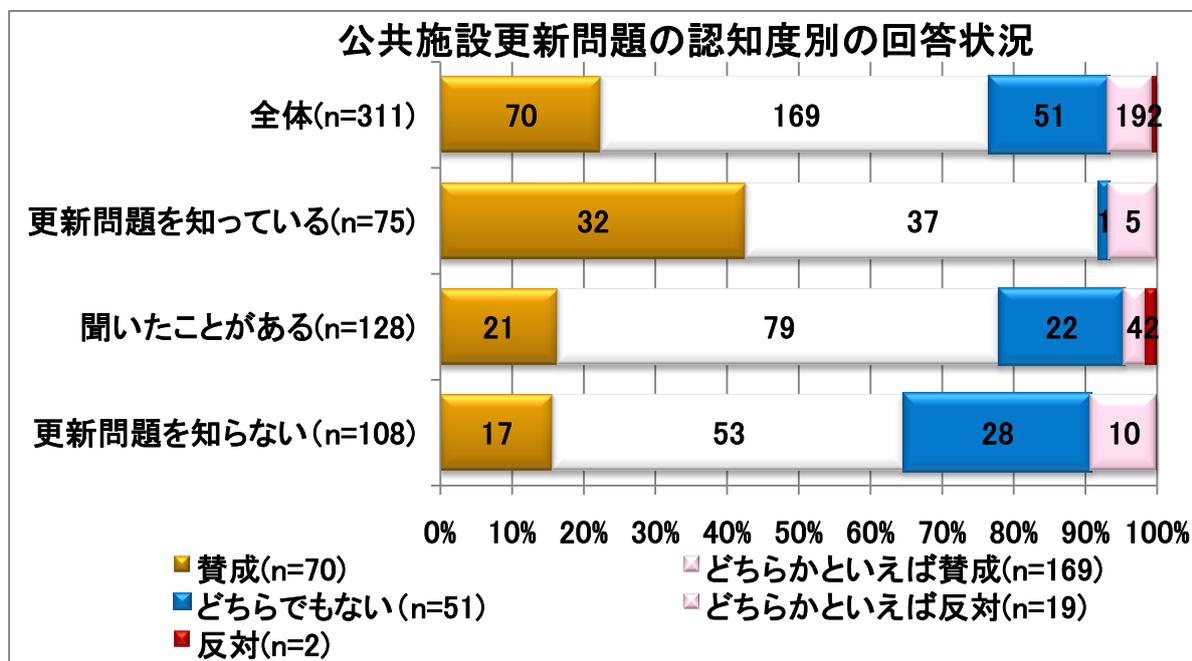
「賛成」と回答した者の割合が最も高かったのは、過去1年間に公共施設を定期的に利用していると回答した者となり、「どちらかといえば賛成」と回答した者の割合が最も高かったのは、1回又は数回利用したと回答した者となりました。

また両者を合わせた割合が最も高いのは、定期的に利用したと回答した者の85.7%でした。



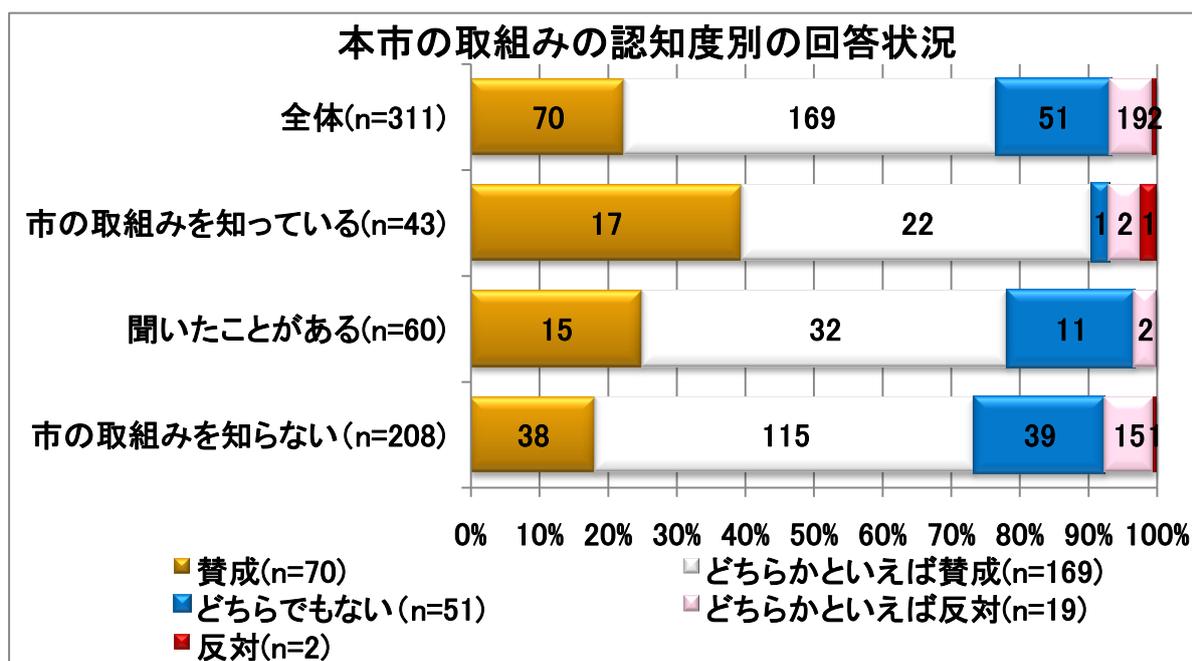
◆ 更新問題認知度別の比較

「賛成」と答えた者の割合が最も高くなるのは、更新問題を知っていると答えた者であり、「どちらかといえば賛成」と答えた者を合わせると、更新問題を知っている者の92.0%が賛成を示しています。



◆ 本市の取組み認知度別の比較

「賛成」と答えた者の割合が最も高くなるのは、本市の取組みを知っていると答えた者であり、「どちらかといえば賛成」と答えた者を合わせると、本市の取組みを知っている者の90.7%が賛成を示しています。



質問7 前問で「どちらかといえば反対である」又は「反対である」とお答えになった方は、その理由をお聞かせください。(n=21)

回答内容	性別	年齢
もっと迅速にやった方がいいと思う、だから役所仕事と言われる	男性	39
必要なものを廃止するに決まっているから。他にもある	男性	44
市政そのものが、施設の有効活用を、おこなっていない様な気がする。市民の意見を聴いているのかが疑問で、納得がいかない。	男性	71
減るのは困るから	男性	49
今、公共施設が充実しているとは思えない現状から、さらに減らすとなると、ますます不便になり、人口はさらに減ると思うから。	女性	35
取り組みには賛成だがその前に人件費（特に市会議員定数及び給与）の削減を先行させるべき	男性	60
秦野市の公共施設に関しては、かなり満足していますが、大根鶴巻地区からでは、図書館も文化会館も遠いです。これ以上に公共施設が減ることはますます不便になるので避けてほしいです。	女性	50
公共施設を減らすことで真に必要な公共施設サービスが維持できる根拠が不明	男性	30
秦野市の人口は減っているのですか？イメージでは増えているようにおもえます。今後もっと使用しようとおもっていたので。	男性	47
建設業者との癒着である。	男性	55
サービスの質の低下は避けられないと思うから	男性	44
公共施設は住居近くにあって利用価値があるもので減らされることにより地域住民の足が遠のく。	女性	63
各地域で必要とされ準備された施設が多数で、地域に密着した活用が行われている中、再編で、高齢者がさまざまな活動を行うために現在よりも遠い施設に行かなければならなくなったりすると、それこそ高齢者等の活動が制限されてしまうのではないかと考えます。	男性	42
公共施設は、利用しているから	男性	46
必要性の高い公共施設サービスが具体的にわからない。少子高齢化の時代に義務教育だけでなく老人が楽しめることにより健康になり医療費が軽減できるような施設も必要	女性	44
公共施設が遠くなり利用出来なくなる高齢者が出ることが考えられます。	女性	70
31%減らすというのは多すぎると思うし、そんなに減ってしまっただけで地元の人が他人とふれ合う機会まで減ってしまう気がするから	女性	22
近くに図書館などの施設がなくなると困る	女性	49
ある程度減らす事はやむを得ないと思う。他に削減出来る事もあると思うので、20%以内に。	男性	39

回答内容	性別	年齢
利用率は今と変わらないと思うから	男性	41
交通機関があまり整っていないのに 建物までどっかに行ってしまうたらますます利用しにくくなるから	女性	41

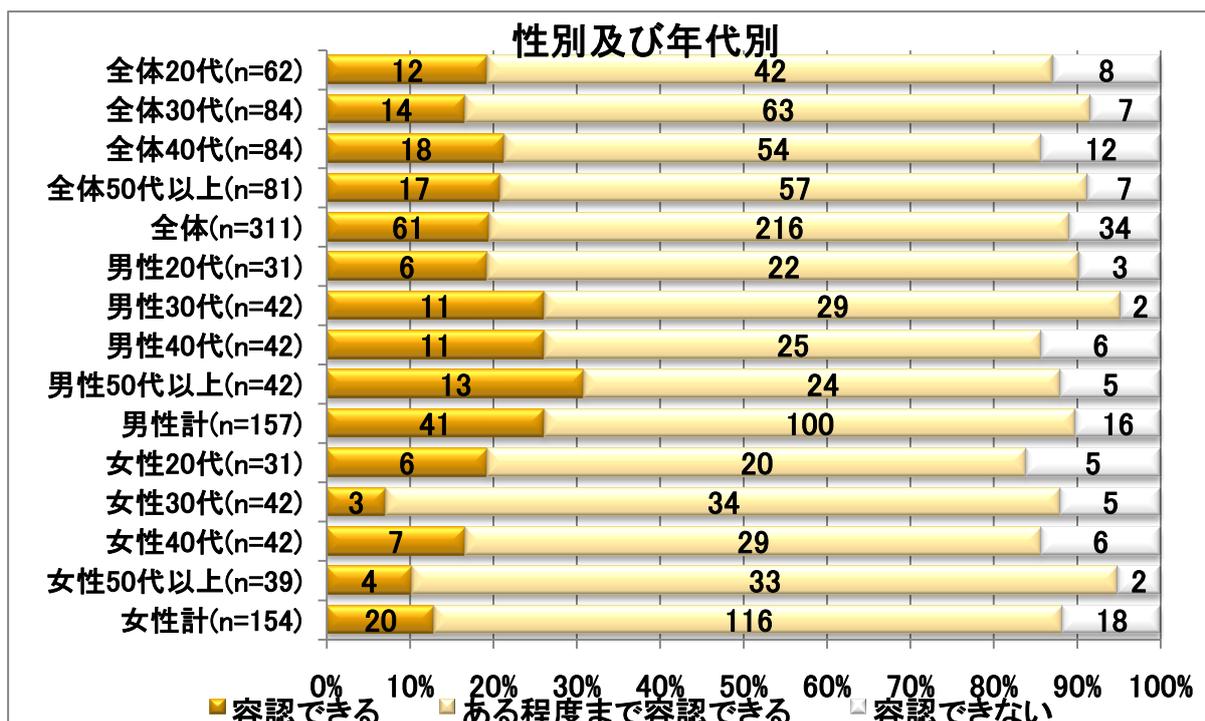
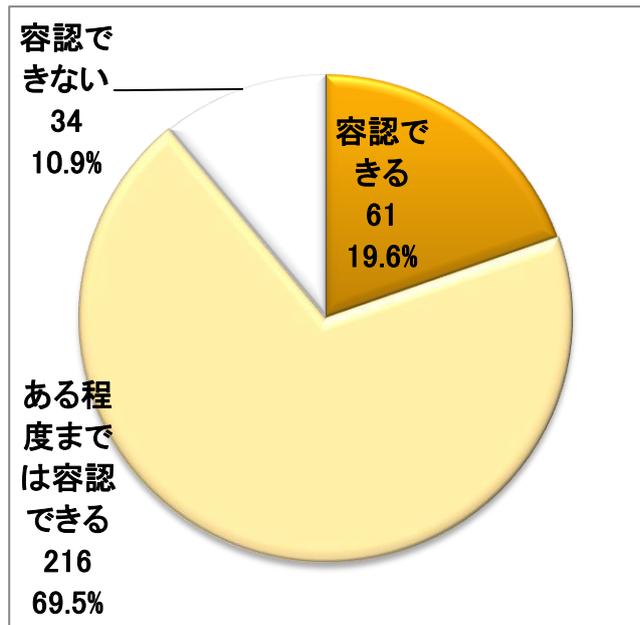
質問 8 「公共施設の再配置」を進めると、施設の統合や廃止により、今まで利用できた施設が利用できなくなったり、使用料が値上がりする場合があります。このことに対するあなたの考えに最も近いものを一つ選んでください。

◆ 「容認できない」と回答した者は、全体の1割程度となっています。

◆ 性別及び年代別の比較

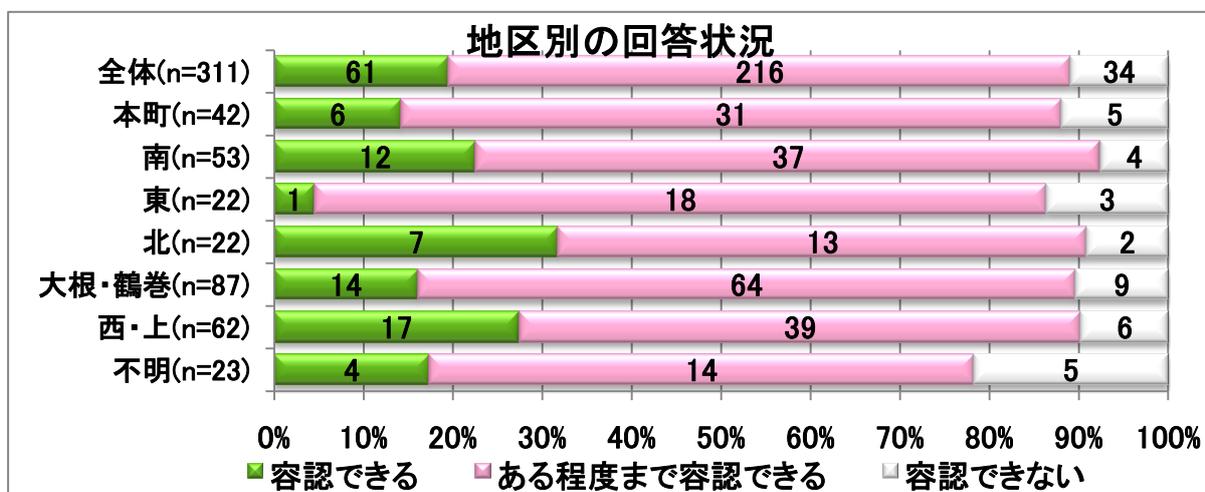
「容認できる」と回答した者の割合が最も高かったのは、性別では男性、年代では40代となり、50代以上の男性の33.3%が最高となりました。

「ある程度までは容認できる」と回答した者の割合が最も高かったのは、性別は女性、年代は30代となり、50代以上の女性の84.6%が最高となりました。また、「容認できない」と回答した者の割合が最も高かったのは、性別では女性、年代では40代となり、20代の女性の16.1%が最高となりました。



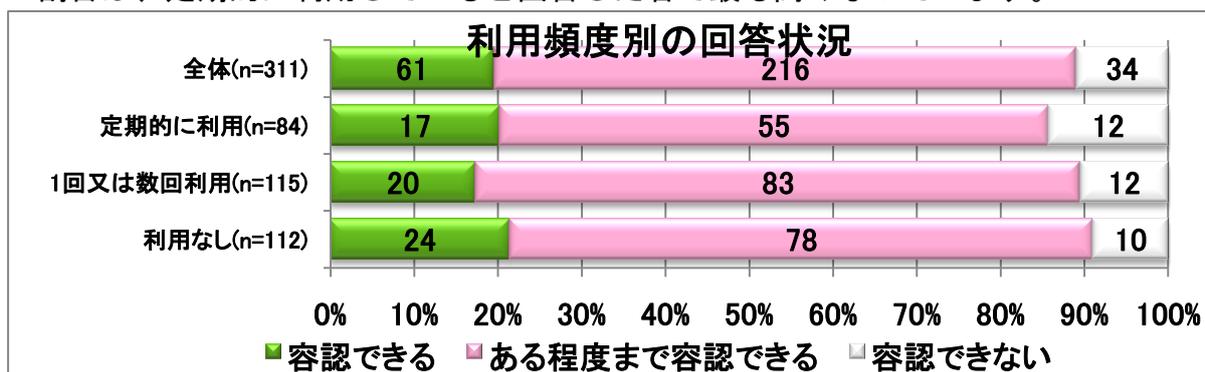
◆ 地区別の比較

「容認できる」と回答した者の割合が最も高かったのは、北地区となり、「容認できない」と回答した者の割合が最も高かったのは、東地区となりました。



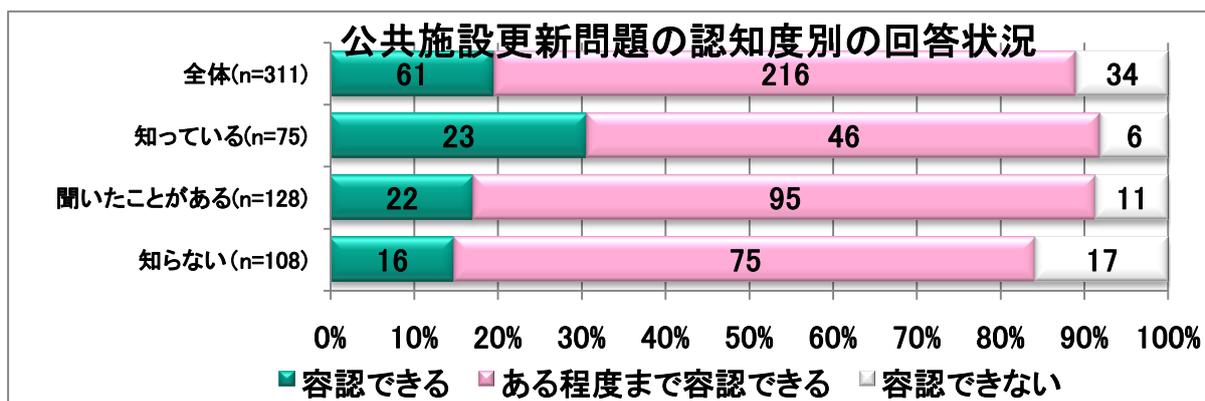
◆ 公共施設利用頻度別の比較

利用頻度によって大きな差はありませんが、「容認できない」と回答した者の割合は、定期的にご利用していると回答した者で最も高くなっています。



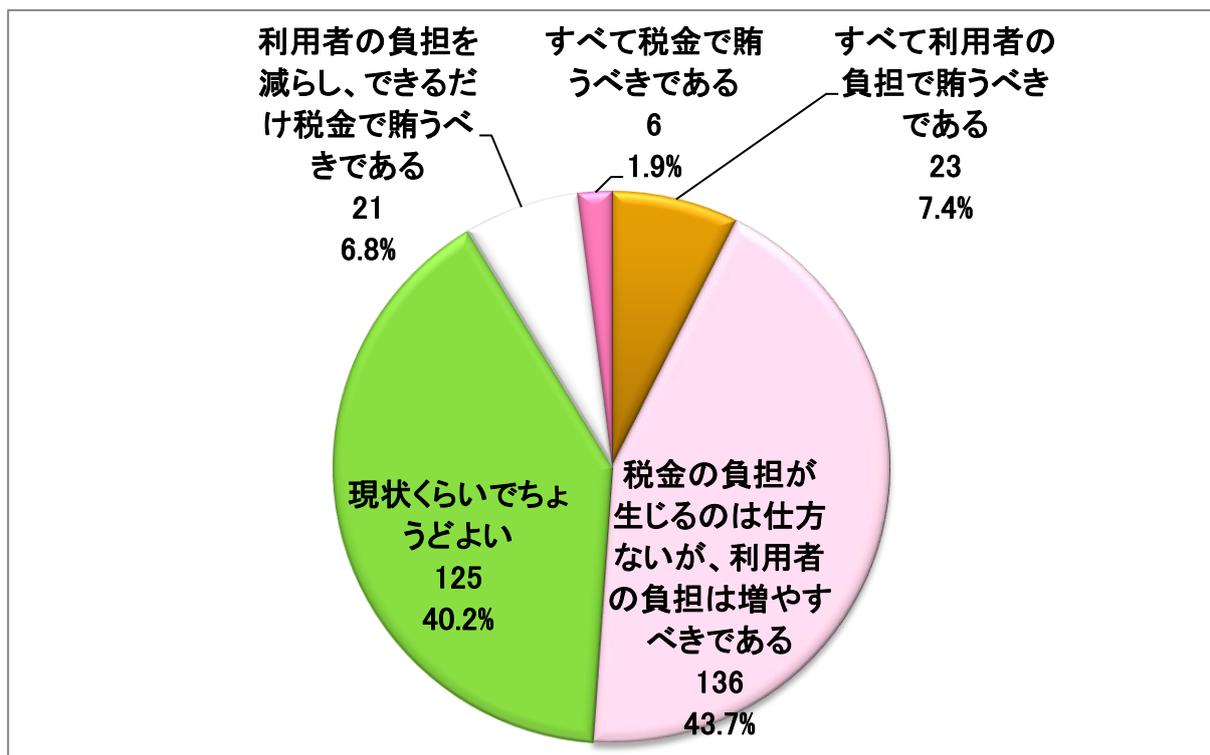
◆ 更新問題認知度別の比較

「容認できる」と答えた者の割合が最も高いのは、更新問題を知っていると回答した者となり、「容認できない」と回答した者の割合が最も高くなるのは、更新問題を知らないと答えた者となりました。



質問9 不特定の市民が利用する公共施設の中には、利用者から使用料をいただいている施設もありますが、全体の管理運営費に対する利用者の負担割合は15%程度であり、残りの85%は税金で賄われています。このことに対して、あなたの考えに最も近いものを選んでください。

- ◆ 「すべて利用者の負担で賄うべきである」と回答した者を合わせて、現状よりも利用者の負担を増やすべきであると答えた者の割合が、過半数を超えています。これに対して、「すべて税金で賄うべきである」と回答した者を合わせて、現状よりも利用者の負担を減らすべきと答えた者の割合は8.7%となっています。

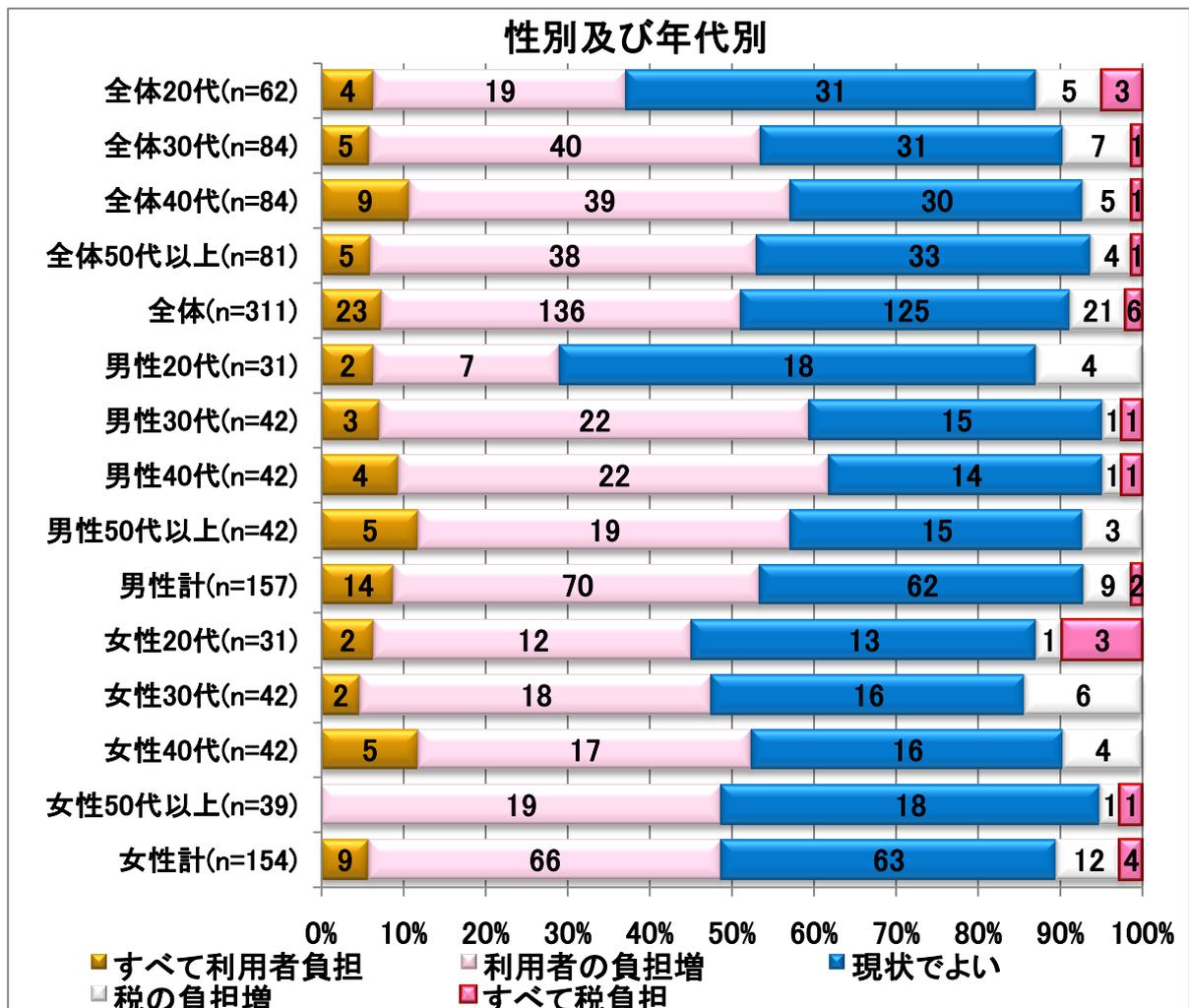


◆ 性別及び年代別の比較

利用者の負担増を求める回答は、女性よりも男性に多く、年代別では、40代に最も多くなり、40代男性では、61.9%となります。逆に最も少ないのは、20代男性の29.0%となっています。

利用者の負担減を求める回答は、男性よりも女性に多く、年代別では、20代に最も多くなり、30代女性では、14.3%となります。逆に最も少ないのは、30代と40代の男性で、4.8%となっています。

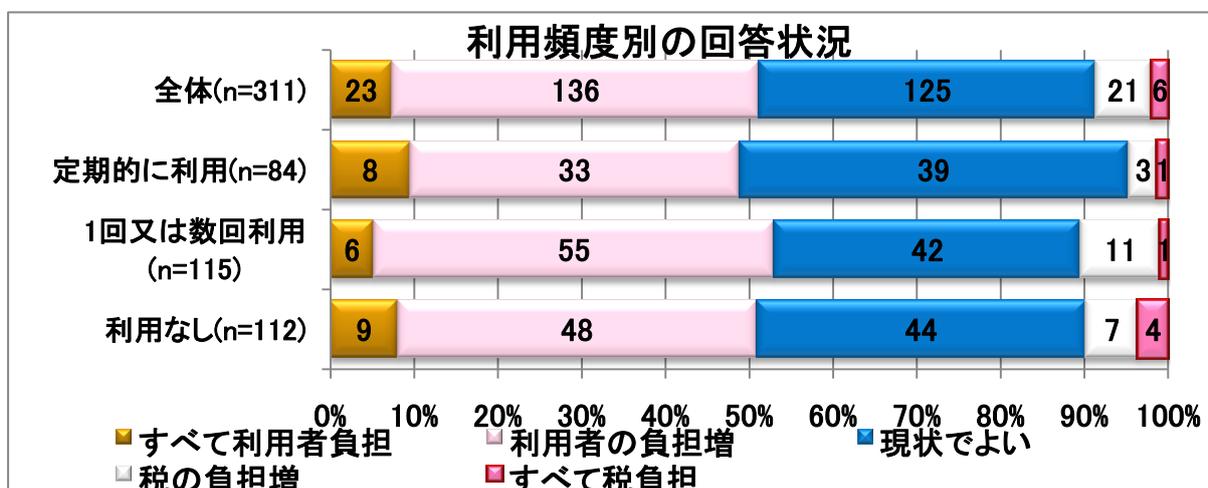
また、20代男性で「現状くらいでちょうどよい」と回答した者の割合が最も多くなっています。



◆ 公共施設利用頻度別の比較

利用者の負担増を求める回答、利用者の負担減を求める回答とともに、過去 1 年間に公共施設を「1 回又は数回利用した」と回答した者に最も多くなりました。

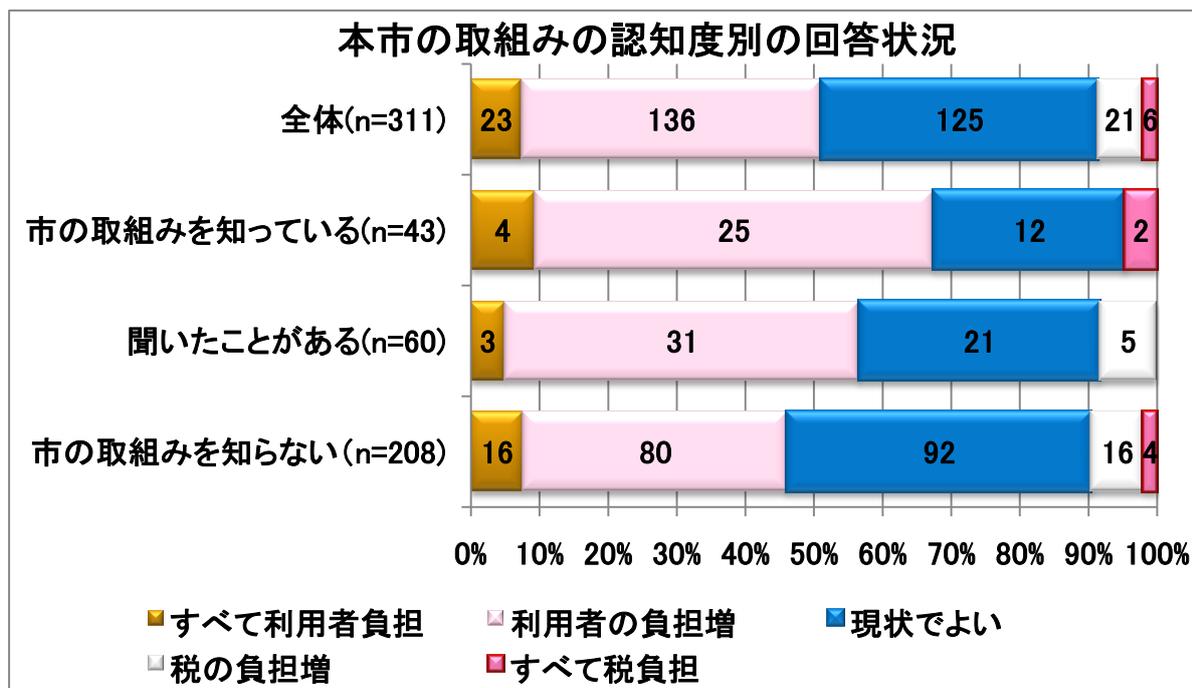
また、利用者の負担減を求める回答が、「定期的に利用した」と回答した者で割合が最も低くなり、「現状くらいでちょうどよい」と回答した者の割合は、「定期的に利用した」と回答した者が最も高くなっています。



◆ 本市の取組み認知度別の比較

利用者の負担増を求める回答の割合が最も高いのは、「本市の取組みを知っている」と回答した者となりました。また、取組みを知っている回答者は、現状でちょうどよいとする回答及び利用者の負担減を求める回答の割合が最も低くなっています。

また、利用者の負担減を求める回答の割合が最も高いのは、「本市の取組みを知らない」と回答した者となっています。



質問 10 不特定の市民が利用できる公共施設のうち、あなたが将来にわたり、優先的に維持するべきと考える公共施設を5つ選び、優先順位を付けてください。

- ◆ 1位に挙げた回答者が最も多かったのは、前回調査に続き「図書館」となりました。以下「公民館」、「総合体育館」、「文化会館」、「中央運動公園」と続きます。

施設名	順位	1位/番目		2位/番目		3位/番目		4位/番目		5位/番目	
		回答	%								
1 各地区の公民館		56	18.0	27	8.7	21	6.8	29	9.3	37	11.9
2 総合体育館		43	13.8	64	20.6	54	17.4	33	10.6	28	9.0
3 図書館		97	31.2	65	20.9	42	13.5	29	9.3	17	5.5
4 保健福祉センター		20	6.4	21	6.8	29	9.3	30	9.6	21	6.8
5 文化会館		34	10.9	44	14.1	52	16.7	46	14.8	24	7.7
6 おおね公園		15	4.8	28	9.0	21	6.8	13	4.2	18	5.8
7 中央運動公園		30	9.6	28	9.0	45	14.5	48	15.4	34	10.9
8 各地区の児童館		0	0.0	4	1.3	8	2.6	15	4.8	21	6.8
9 鶴巻温泉弘法の里湯		4	1.3	5	1.6	8	2.6	13	4.2	15	4.8
10 田原ふるさと公園		0	0.0	0	0.0	2	0.6	4	1.3	4	1.3
11 広畑ふれあいプラザ		1	0.3	2	0.6	4	1.3	0	0.0	3	1.0
12 サンライフ鶴巻		3	1.0	1	0.3	0	0.0	1	0.3	4	1.3
13 末広ふれあいセンター		0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.3	1	0.3
14 なでしこ会館		0	0.0	0	0.0	1	0.3	5	1.6	4	1.3
15 曾屋ふれあい会館		0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.3
16 曲松児童センター		0	0.0	0	0.0	2	0.6	0	0.0	2	0.6
17 桜土手古墳展示館		0	0.0	2	0.6	3	1.0	4	1.3	8	2.6
18 表丹沢野外活動センター		1	0.3	4	1.3	1	0.3	11	3.5	15	4.8
19 宮永岳彦記念美術館		0	0.0	1	0.3	1	0.3	3	1.0	3	1.0
20 はだのこども館		1	0.3	3	1.0	1	0.3	2	0.6	3	1.0
21 中野健康センター		0	0.0	2	0.6	1	0.3	2	0.6	3	1.0
22 くずはの家		0	0.0	1	0.3	2	0.6	5	1.6	8	2.6
23 里山ふれあいセンター		0	0.0	2	0.6	3	1.0	1	0.3	2	0.6
24 この中にはない		6	1.9	7	2.3	10	3.2	16	5.1	35	11.3

◆ 得点化による集計

各施設別に第1位を5点、第2位を4点…第5位を1点として得点を集計すると、次表のとおりとなりました。

最高点は、前回調査に続き「図書館」となり、得点も前回より増えています。また、前回調査よりも2ランク以上順位が上がっているのは、2位の「総合体育館」、12位の「広畑ふれあいプラザ」、14位の「はだのこども館」、16位の「里山ふれあいセンター」となりました。

逆に、2ランク以上順位が下がっているのは、5位の「中央運動公園」、17位の「田原ふるさと公園」、19位の「なでしこ会館」、20位の「宮永岳彦記念美術館」となりました。なお、最下位は、前回調査と同じ「曾屋ふれあい会館」でした。

順位	施設名	得点	前回順位	前回得点
1	図書館	946	1 ←	904 ↑
2	総合体育館	727	4 ↑	641 ↑
3	文化会館	618	3 ←	649 ↓
4	各地区の公民館	546	5 ↑	510 ↑
5	中央運動公園	527	2 ↓	682 ↓
6	保健福祉センター	352	7 ↑	293 ↑
7	おおね公園	294	6 ↓	307 ↓
8	鶴巻温泉弘法の里湯	105	8 ←	110 ↓
9	各地区の児童館	91	9 ←	66 ↑
10	表丹沢野外活動センター	61	11 ↑	60 ↑
11	桜土手古墳展示館	33	10 ↓	65 ↓
12	広畑ふれあいプラザ	28	15 ↑	20 ↑
13	くずはの家	28	13 ←	24 ↑
14	はだのこども館	27	20 ↑	5 ↑
15	サンライフ鶴巻	25	14 ↓	21 ↑
16	里山ふれあいセンター	21	19 ↑	7 ↑
17	田原ふるさと公園	18	12 ↓	33 ↓
18	中野健康センター	18	18 ←	8 ↑
19	なでしこ会館	17	16 ↓	15 ↑
20	宮永岳彦記念美術館	16	17 ↓	9 ↑
21	曲松児童センター	8	20 ↓	5 ↑
22	末広ふれあいセンター	3	22 ←	4 ↓
23	曾屋ふれあい会館	1	23 ←	2 ↓

【凡 例】

←：前回調査と順位又は得点と同じもの

↑：前回調査より順位又は得点が上がったもの

↓：前回調査より順位又は得点下がったもの

【備 考】

前回の調査は、サンプル数が302であったため、前回得点は、実際の得点の311/302倍にしてあります。

◆ 性別・年代別の得点化

性別及び年代別に前期と同様に得点化し、上位5施設を表すと、次表のとおりとなりました。

性別 年代	男性		女性		合計		
	施設名	得点	施設名	得点	施設名	得点	
20代	1	図書館	96	図書館	91	図書館	187
	2	総合体育館	88	総合体育館	71	総合体育館	159
	3	おおね公園	59	文化会館	54	文化会館	107
	4	文化会館	53	中央運動公園	43	おおね公園	99
	5	公民館	43	公民館	40	公民館	83
	6	中央運動公園	38	おおね公園		中央運動公園	81
30代	1	図書館	148	図書館	145	図書館	293
	2	総合体育館	108	総合体育館	103	総合体育館	211
	3	文化会館	86	中央運動公園	80	文化会館	158
	4	公民館	80	文化会館	72	中央運動公園	153
	5	中央運動公園	73	公民館	67	公民館	147
	6	保健福祉センター	58	保健福祉センター	62	保健福祉センター	120
40代	1	図書館	119	図書館	150	図書館	269
	2	総合体育館	100	総合体育館	94	総合体育館	194
	3	文化会館	84	公民館	86	文化会館	164
	4	中央運動公園	80	文化会館	80	中央運動公園	150
	5	公民館	50	中央運動公園	70	公民館	136
	6	おおね公園	46	保健福祉センター	58	保健福祉センター	86
50代 以上	1	文化会館	105	図書館	107	図書館	197
	2	図書館	90	公民館	93	文化会館	189
	3	公民館	87	文化会館	84	公民館	180
	4	中央運動公園	86	総合体育館	83	総合体育館	163
	5	総合体育館	80	保健福祉センター	63	中央運動公園	143
	6	おおね公園	42	中央運動公園	57	保健福祉センター	101
合計	1	図書館	453	図書館	493	図書館	946
	2	総合体育館	376	総合体育館	351	総合体育館	727
	3	文化会館	328	文化会館	290	文化会館	618
	4	中央運動公園	277	公民館	286	公民館	546
	5	公民館	260	中央運動公園	250	中央運動公園	527
	6	おおね公園	164	保健福祉センター	220	保健福祉センター	352

特徴としては、男性では運動系の施設の得点が上位となり、女性では公民館や保健福祉センターの得点が上位となる傾向があります。また、年代が低いほど運動系の施設の得点が上位となります。

なお、総合計の上位5施設は、すべての性別及び年代で上位に含まれ、中でも図書館は、50代以上の男性を除き、すべての区分で1位となり、総合体育館は、50代以上を除き、すべての区分で2位となりました。